SONY

2-318-593-**02** (1)

取扱説明書

サイバーショット応用編／困ったときは

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット基本編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DSC-V3

Cyber-shot

楽しみかたは、CD-ROMのムービーをご覧ください。

使いかたムービー「Cyber-shot Life」
**** Windowsのみ対応***

基本的な内容は、別冊取扱説明書をご覧ください。

「サイバーショット基本編」

目次

静止画を見る

静止画をプリントする

動画を撮る

パソコンで楽しむ

Windowsの場合

Macintoshの場合

困ったときは

その他

用語の解説／索引

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい情報が載っている場合、本書では「**別冊基本編 ➡** ページ番号」のようにご案内しています。

本機の設定／操作のしかた

ここでは、メニューやSET UP画面の使いかたをまとめて説明します。

- モードダイヤルについて詳しくは、**別冊基本編** ➡ 10ページをご覧ください。

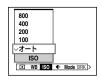
メニューの設定を変える

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」、「▶」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

- モードダイヤルの位置によって表示される項目が異なります。

3 コントロールボタンの◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

- 「▶」のときは項目選択後に中央の●を押してください。

4 コントロールボタンの▲/▼を押し、設定を選ぶ

選ばれた設定が拡大されて、そのまま決定されます。

項目に▲/▼/◀/▶マークが付いているときは

画面に表示されていない項目があります。コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押すと表示されます。

メニュー表示をやめるには

MENUボタンをもう1度押してください。

- グレー表示されている項目は選択できません。
- メニュー項目について詳しくは、95ページをご覧ください。

SET UP画面で設定を変える

1 モードダイヤルを「SET UP」にする
SET UP画面が表示されます

2 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ
選ばれた設定の枠が黄色に変わります。

3 コントロールボタンの中央の●を押し、設定（実行）する

SET UP画面表示をやめるには

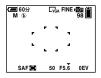
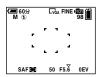
モードダイヤルを「SET UP」以外にしてください。

- SET UP項目について詳しくは、98ページをご覧ください。

ジョグダイヤルの使いかた

手動調節モード（シャッタースピード優先モード、絞り優先モード、マニュアル露出モード）や露出補正、手動フォーカスを使って撮影したり、AF測距枠を変更するときは、ジョグダイヤルで設定値を変更します。

項目を選ぶとき

1 ジョグダイヤルを回し、設定したい項目を選ぶ
黄色い▼マークが移動し、設定したい項目が選べます。

2 ジョグダイヤルを押す
数値が黄色で表示されます。

3 他の項目を設定するときは、ジョグダイヤルを押してから、設定したい項目を選ぶ

- グレー表示されている項目は選択できません。

静止画の画質を決める

数値を選ぶとき

数値が黄色に表示されると、数値選択ができます。

ジョグダイヤルをまわし、数値を選ぶ

数値は表示された状態で決定されます。

静止画の画質を選ぶことができます。
画質(圧縮率)は[ファイン](高画質)と[スタンダード](標準)の2種類から選ぶことができます。
本機では、この画質の設定の他にデータをそのまま記録する[RAWモード](39ページ)、非圧縮画像を記録する[TIFFモード](40ページ)を[Mode](撮影モード)より選ぶこともできます。

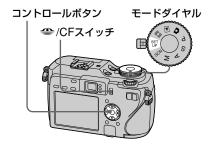
1 **モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で[ ](画質)、▲/▼で希望の画質を選ぶ**

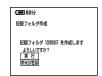
フォルダを作成／選択する

本機は記録メディアの中に複数のフォルダを作成することができます。フォルダは撮影前に選択できるので、画像の整理などにお使いいただけます。
新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されます。フォルダは最高で「999MSDCF」まで作成することができます。

- 1つのフォルダに記録できるのは最大4000枚です。フォルダ容量を越えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。

新しいフォルダを作る

1 モードダイヤルを「SET UP」にして、/CFスイッチで記録メディアを選ぶ

2 ▲/▼で[ ]（メモリースティックツール）または[ ]（CFカードツール）、▶/▲/▼で[記録フォルダ作成]、▶/▲で[実行]を選び、中央の●を押す

記録フォルダ作成画面が表示されます。

3 ▲で[実行]を選び、中央の●を押す

既存最大番号＋1のフォルダが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録されます。

フォルダ作成を中止するには

手順2または3で[キャンセル]を選んでください。

- 1度作成したフォルダを本機では削除することはできません。
- 撮影する画像は、違うフォルダを選択するか、さらに新しくフォルダを作成するまで、そのフォルダに記録されます。

記録フォルダを選択する

1 モードダイヤルを「SET UP」にして、/CFスイッチで記録メディアを選ぶ

2 ▲/▼で[ ](メモリースティックツール)または[ ](CFカードツール)、▶/▼で[記録フォルダ変更]、▶/▲で[実行]を選び、中央の●を押す

記録フォルダ選択画面が表示されます。

3 ◀/▶で希望のフォルダを選び、▲で[実行]を選び、中央の●を押す

記録フォルダの変更を中止するには

手順2または3で[キャンセル]を選んでください。

- 「100MSDCF」フォルダは記録フォルダとして選ぶことはできません（**別冊基本編** ➡ 60ページ）。
- 画像は選択した記録フォルダに記録されます。本機では記録した画像を別のフォルダに移動することはできません。

操作の前に

場面から選ぶマニュアル撮影

オートモードで撮影することに慣れたら、いろいろな撮影場面で、設定を変えて撮影してみましょう。ここでは、いくつかの撮影場面を参考に、代表的なマニュアル撮影の操作を紹介します。

Q 背景をぼかしたポートレートを撮るには？

➡ **絞り優先で撮る（15ページ）**

背景をぼかして被写体を強調したい場合は、絞り値を手動で設定して撮影します。絞りを開く（絞り値を小さくする）ほど、ピントが合う範囲が狭くなるので、背景がぼけます。

Q 逆光でポートレートを撮るには？

➡ **フラッシュモードを選ぶ（28ページ）**

明るい場所では人物が暗く撮影されることがあります。これは背景が被写体よりも明るいためです。この場合は、フラッシュを⚡（強制発光）にすると、背景と被写体を明るく撮影することができます。

- フラッシュが届く範囲で使用できます。

Q 夜景を撮るには？

➡ **シャッタースピード優先で撮る（13ページ）**

静止画オート撮影でフラッシュを発光するとシャッタースピードが制限され、フラッシュも届かないため夜景がきれいに写りません。シャッタースピードを手動で遅くしてフラッシュを⊘（発光禁止）にし、EV補正で明るさを抑えると、夜景でもきれいに撮ることができます。

Q　フラッシュを使用しないで撮影するには？

➡ 感度を変える（23ページ）

フラッシュを使用できなかったり、シャッタースピードを遅くできない場合は、ISO感度を上げて撮影してみましょう。ISO感度を上げると周囲の光をいかして撮影することができます。

Q　動いている被写体を撮るには？

➡ シャッタースピード優先で撮る（13ページ）

動きのある人物や物を撮影する場合は、シャッタースピードを速くして動作の一瞬をとらえたり、シャッタースピードを遅くして、意図的に流れるような画像にします。シャッタースピードを活用して、肉眼では見えない瞬間を表現してみましょう。

Q　きれいな夕焼けを撮るには？

➡ 色合いを調節する（32ページ）

撮影した夕焼けの画像が自分の好みの色でない場合は、ホワイトバランスを変えて撮影してみましょう。ホワイトバランスを☀（太陽光）にすると夕焼けの赤みを強調することができます。

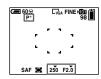
プログラムオートで撮る

プログラムオート撮影では、静止画オート撮影（モードダイヤル📷）と同様に被写体の明るさに応じてシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。また、静止画オート撮影では設定できない撮影機能をメニューで設定できます（95ページ）。

プログラムシフト

自動で設定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、露出を固定したまま変更することができます。

1 モードダイヤルを「P」にする

2 ジョグダイヤルでシャッタースピードと絞り値の組み合わせを選ぶ

プログラムシフト中は「P*」が表示されます。

3 撮影する

プログラムシフトを解除するには

ジョグダイヤルを回して表示の「P*」を「P」に戻す。

- シャッターボタンを半押ししているときは、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選べません。
- 明るさが変わると絞り値とシャッタースピードはプログラムシフトの組み合わせを保持したまま変化します。
- 撮影状況によっては絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できないことがあります。
- フラッシュモードの設定を変更した場合は、プログラムシフトが解除されます。
- モードダイヤルを「P」以外にするか、電源を切ると設定は解除されます。

シャッタースピード優先で撮る

シャッタースピードを手動で調整できます。
シャッタースピードを速くすると動いているものが止まっているように写り、シャッタースピードを遅くすると動いているものが流れるように写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、絞り値は自動調整されます。

速いシャッタースピード

遅いシャッタースピード

1 モードダイヤルを「S」にする

2 ジョグダイヤルでシャッタースピードを選ぶ

1/1000秒から30秒の範囲で選べます。
一定のシャッタースピード*を選択すると、シャッタースピードの前に「NR」と表示され、自動的にNRスローシャッターモード（14ページ）に入ります。

* [ISO]が[800]のとき：1/25秒またはそれより遅いシャッタースピード
[ISO]が[800]以外のとき：1/6秒またはそれより遅いシャッタースピード

3 撮影する

- 1秒以上は「1"」のように「"」が表示されます。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは⚡（強制発光）または㊋（発光禁止）になります。
- シャッタースピードが速いときは、フラッシュを発光しても、明るさが充分でないことがあります。
- 露出補正値を調整することができます（18ページ）。

NRスローシャッター

撮影した画像からノイズを低減し、きれいな画像を得る機能です。一定のシャッタースピード*になると、自動的にNRスローシャッター機能が働き、シャッタースピード表示の前に「NR」が表示されます。

* ［ISO］が［800］のとき：1/25秒またはそれより遅いシャッタースピード
  ［ISO］が［800］以外のとき：1/6秒またはそれより遅いシャッタースピード

シャッターボタンを深く押し込む。

↓

このとき画面は黒くなります。

↓

「処理中」の表示が消えると、画像が記録されます。

- 手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- 設定されているシャッタースピードの時間だけノイズを低減する処理を行うため、シャッタースピードが遅く設定されているときは、処理に時間がかかります。

撮影のテクニック

走っている人や車、波しぶきなどを高速のシャッタースピードで撮ると、肉眼ではとらえることができない瞬間を撮影できます。

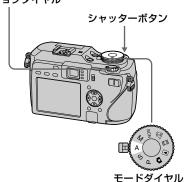
また、低速のシャッタースピードで川の流れなど動きのあるものを撮影すると、より自然な流動感のある画像になります。この場合手ぶれしないように三脚のご使用をおすすめします。

- 本機を手で持って撮影する場合は、（手ぶれ警告）表示が出ない範囲でシャッタースピードを設定してください。

絞り優先で撮る

レンズに入る光量を手動で調整できます。
絞りを開く（絞り値を小さくする）と光量が増えます。ピントの合う範囲が狭くなり、被写体のみがくっきり写ります。
絞りを閉じる（絞り値を大きくする）と光量が減ります。ピントの合う範囲が広がり、画面全体がシャープに写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、シャッタースピードは自動調整されます。

絞りを開く

絞りを閉じる

1 モードダイヤルを「A」にする

2 ジョグダイヤルで絞り値を選ぶ

ズーム位置によって選べる範囲は変わります。F2.8からF8の範囲で選べます。

3 撮影する

- ズーム位置によって選べる範囲は変わります。
- シャッタースピードは1/1000秒から8秒の範囲で自動調整されます。絞り値をF5.6以上に設定した場合は1/2000秒からになります。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは⚡（強制発光）、⚡SL（スローシンクロ）または㊉（発光禁止）になります。
- 露出補正値を調整することができます（18ページ）。

マニュアル露出で撮る

撮影のテクニック

絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く（ピントの合う範囲は狭く）なり、絞りを閉じると深く（ピントの合う範囲が広く）なります。

絞りを開く
背景をぼかして被写体をくっきり写す

絞りを閉じる
被写体と背景とにピントが合うように写す

画像全体をシャープにするのか、特定部分だけを強調するのか、撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。

シャッタースピードと絞り値を、手動で調整できます。
設定した値と本機が判断した適正露出の差が画面上にEV値（18ページ）で表示されます。0EVが本機が最適と判断した値です。
一度設定した値は電源を切っても保持されます。希望の露出を決めておけば、後でモードダイヤルを「M」にして同じ露出を再現することができます。

1 **モードダイヤルを「M」にする**

2 **シャッタースピード値を選ぶ**
ジョグダイヤルで選びます（6ページ）。

3 **絞り値を選ぶ**
ジョグダイヤルで選びます（6ページ）。

4 **撮影する**

測光の方法を選ぶ

- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは⚡(強制発光)または⊛(発光禁止)になります。

露出を決めるために被写体のどの部分で明るさを測るのかを、測光モードで選ぶことができます。

マルチパターン測光(表示なし)
画面を多分割し、それぞれを測光します。被写体の位置や背景の明るさをカメラが判断してバランスのよい露出を決めます。お買い上げ時はマルチパターン測光に設定されています。

中央重点測光(⊙)
画面の中央部に重点をおいて測光します。中央部付近の被写体の明るさを基準にして露出を決めます。

スポット測光(⊡)
被写体の一部分だけを測光します。逆光にある被写体でも暗くならないように撮影することができます。また、被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

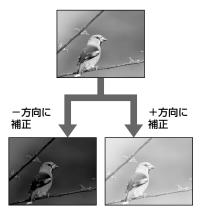
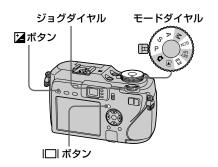
3 ◀/▶で[⊡](測光モード)、▲/▼で希望の測光モードを選ぶ

4 手順**3**で「スポット」を選んだときは、撮りたいポイントにスポット測光照準を合わせて撮る

スポット測光照準

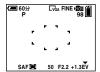
露出を補正する － EV補正

- 中央重点測光とスポット測光の場合、測光する場所とフォーカスを合わせる場所を一致させたいときは、「AF測距枠」の「中央重点AF」を使うことをおすすめします（24ページ）。
- NIGHTSHOT、NIGHTFRAMING時は測光モードは選べません。

本機が決定した露出を手動で変えることができます。被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な露出が得られないときに使用します。
補正する数値は＋2.0EVから－2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 （EV補正）ボタンを押す

3 ジョグダイヤルで補正値を選ぶ

露出補正値が表示されます。
被写体の背景の明るさを画面で確認しながら調節してください。

ヒストグラムを表示する

自動露出に戻すには

手順3で[0EV]を選んでください。

- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

ヒストグラムとは、画像の明るさをグラフ化したものです。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。グラフの表示が右側に寄っているときは明るめの画像、左側に寄っているときは暗めの画像となります。画面が見づらいとき、撮影／再生時に露出を確認するときに使います。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「SCN」のいずれかにする

2 ボタンを押してヒストグラムを表示する

3 ヒストグラムを参考に、露出を補正する

- モードダイヤルを「」、「M」の位置にしてもヒストグラムは表示されます。ただし、EV補正はできません。
- 静止画のシングル画面での再生時（**別冊基本編** → 38ページ）、クイックレビュー時（**別冊基本編** → 27ページ）にも、ボタンでヒストグラムを表示することができます。
- 下記の場合、ヒストグラムは表示されません。
  - メニューを表示しているとき
  - ブラケットモードで撮影した画像のクイックレビュー時
  - 再生ズーム時
  - 動画時
- 下記の場合、⊗が表示されヒストグラムは表示されません。
  - デジタルズーム領域での撮影時
  - 画像サイズが「3:2」のとき
  - マルチ連写再生時
  - 静止画の回転時

- 撮影前のヒストグラムはそのときに画面に表示されている画像のヒストグラムを表しています。シャッターボタンを押す前と押した後では、ヒストグラムに差が生じます。その場合は、シングル画面での再生、またはクイックレビューで確認してください。
  特に下記の場合は大きく差が出ることがあります。
  - フラッシュ発光時
  - NIGHTFRAMING時
  - シャッタースピードが遅いとき、または速いとき
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

撮影のテクニック

撮影時、本機は自動で露出を設定しています。

逆光の人物や雪景色などのように全体が白っぽい被写体を撮影すると、本機が明るいと判断して、露出が暗めになることがあります。その場合は＋方向に補正すると効果的です。

＋方向に補正

また、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときは、本機が暗いと判断して、露出が明るめになることがあります。その場合は－方向に補正すると効果的です。

－方向に補正

露出オーバー／露出アンダーになり過ぎないように(白とびしたり真っ黒に潰れないように)、ヒストグラムを見ながら補正してください。

どの明るさが良いかは好みによるので、露出を変えていろいろな画像をお試しください

露出を固定して撮る
ー AE LOCK

露出を先に決めてから撮りたい構図にして撮影できます。
被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光時の撮影などに有効です。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 露出を測光したい被写体に本機を向け、AE LOCKボタンを押す
露出が固定され、✱マークが出ます。

3 希望の構図にして、シャッターボタンを半押しする
フォーカスを調節します。

4 シャッターボタンを深く押し込む

AE LOCKを解除するには

以下のいずれかの操作を行ってください。

- 手順2の後でもう1度AE LOCKボタンを押す。
- 手順3の後でシャッターボタンから指を離す。
- 手順4でそのまま画像を撮る。

撮影のテクニック

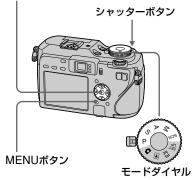
本機は被写体に合わせて自動で露出を調節しているため、構図を変えた場合、背景などによって被写体の明るさが変わることがあります。AEロックを使用すると、撮りたい構図での明るさに左右されずに撮影できます。

露出を決めるために中央重点測光やスポット測光で適正露出にしたい部分を測光する。

AE LOCKボタンを押し、露出を固定してから構図を変えて撮影する。

適正露出にしたい部分

最適な露出を探す
ー ブラケット

自動的に決定された露出とは別に、+方向／−方向に補正した露出での画像も同時に記録します。
被写体の明るさによってうまく撮影できないときは、ブラケット撮影で露出を変えながら撮影すれば、撮影した後で最適な露出の画像を選ぶことができます。

1枚目（＋方向に補正）

２枚目（本機での適正露出）

３枚目（−方向に補正）

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[Mode]（撮影モード）、▲/▼で[ブラケット]を選ぶ

4 ◀/▶で[BRK]（ブラケット設定）、▲/▼で露出補正量を選ぶ

±1.0EV：露出値を上下に1.0EVずらして撮影します。
±0.7EV：露出値を上下に0.7EVずらして撮影します。
±0.3EV：露出値を上下に0.3EVずらして撮影します。

5 撮影する

通常撮影に戻すには

手順3で「通常撮影」を選んでください。

- シーンセレクションのモードによっては、ブラケット撮影ができない場合があります（**別冊基本編** ➞ 37ページ）。
- フラッシュは使えません。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは（18ページ）、補正した明るさを基準に露出を変えて撮影します。

感度を変える – ISO

- 撮影の間隔は約0.3秒です。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりするときは、設定した露出補正量で撮影できない場合があります。
- ブラケット撮影するときは、一定のシャッタースピード*は選べません。

* ［ISO］が［800］のとき：1/25秒またはそれより遅いシャッタースピード
［ISO］が［800］以外のとき：1/6秒またはそれより遅いシャッタースピード

光に対する感度を変えることができます。感度を上げると暗い場所でも撮影できるようになります。
通常はオートに設定されています。オートのときは暗い場所では自動的に感度が上がります。

1 **モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［ISO］、▲/▼で希望の数値を選ぶ**
［800］、［400］、［200］、［100］、［オート］から選べます。

自動調節に戻すには

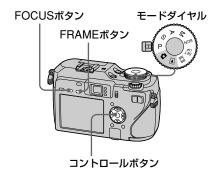
手順**3**で［オート］を選んでください。

- 手ぶれを抑えたい場合、感度を上げるとより速いシャッタースピードで撮影することができます。
- 感度を上げると、ノイズが目立つようになります。画質を優先したい場合は感度を低く設定してください。

オートフォーカスの方法を選ぶ

AF測距枠とAFモードを設定できます。

AF測距枠
被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を選択します。

AFモード
ピント合わせを開始／終了するタイミングを設定します。

ピント合わせの測距枠を選ぶ
ー AF測距

マルチポイントAF（）
中央を中心に上下左右の5か所で距離を測定するので、構図に依存しないオートフォーカス撮影ができます。被写体がフレームの中心になくピントが合わせづらい場合に有効です。AFロック後、ピント合わせを行った位置を緑の枠で確認することができます。
お買い上げ時はマルチポイントAFに設定されています。

中央重点AF（）
中央付近の被写体を狙ってピントを合わせるときに便利です。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能です。

フレキシブルスポットAF（）
画面上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせることができるため、好きな構図で撮影が可能です。三脚を使用した撮影で被写体が中央部にない場合などに便利です。動いている被写体の場合では手振れの影響を受けやすいため、測距枠から被写体がはずれないようにご注意ください。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

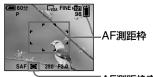
2 FOCUSボタンを押して、AF測距枠選択に切り換える

FOCUSボタンを押すたびに次のように切り換わります。

AF測距枠選択
↕
フォーカスプリセット

3 FRAMEボタンを繰り返し押して、希望のモードを選ぶ

FRAMEボタンを押すたびに次のように切り換わります。

マルチポイントAF → 中央重点AF → フレキシブルスポットAF → フレキシブルスポットAF枠移動

AF測距枠

AF測距枠表示

フレキシブルスポットAF枠移動を選んだときは、AF測距枠の色が白から黄色に変わります。

4 手順3で「フレキシブルスポットAF枠移動」を選んだときは、▲/▼/◀/▶でフォーカスを合わせたい位置に測距枠を移動し、中央の●を押す

シャッターボタンを半押ししてピントが合うとAF測距枠の色が白または黄色から緑色に変わります。

マルチポイントAFに戻すには

手順3でマルチポイントAFを選んでください。

AF枠移動をやり直すときは

手順4でFRAMEボタンを押してください。

- 動画撮影時、マルチポイントAFを選ぶと画面中央部分を平均的に測距し、手振れに強いAFが可能です。AF測距枠表示は[ ]になります。中央重点AFとフレキシブルスポットAFの場合は、選択された枠部分のみで測距するため、狙った部分のピント合わせに便利です。
- フレキシブルスポットAF枠移動モードを選択しているときは、AFモードはモニタリングAFになり、中央の●で決定すると、SET UPで設定されたAFモードに戻ります。
- デジタルズームやホログラフィックAFを使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、AF測距枠表示が点滅し、AF測距枠は表示されません。
- シーンセレクションのモードによっては、選択できないものがあります（**別冊基本編** → 37ページ）。

ピント合わせの動作を選ぶ
ー AFモード

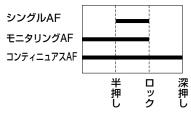
シングルAF（S AF）
動きのない被写体を撮影するときに便利です。
シャッターボタンを半押しする前はピント合わせを行いません。シャッターボタンを半押しし、ロックが完了すると、フォーカスが固定されます。
お買い上げ時はシングルAFに設定されています。

モニタリングAF（M AF）
ピント合わせの時間を短くすることができます。シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを自動的に行うので、ピントが合っている状態で構図を決めることができます。シャッターボタンを半押しし、ロックが完了すると、フォーカスが固定されます。

- シングルAFに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

コンティニュアスAF（C AF）
シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを行い、ロック完了後もピント合わせを行います。被写体が動いた場合でもそのまま撮影が可能です。ただし、動きの速すぎる被写体の場合、追従できない場合があります。AF測距枠は中央重点AFになります。

- 下記の場合は、ロック完了後、ピント合わせを行いません。「C AF」が点滅し、モニタリングAFと同じ動作になります。
  – 暗い状況下での撮影
  – スローシャッターでの撮影
  – NIGHTFRAMING/NIGHTSHOTでの撮影
- ピントが合ったときのロック音は鳴りません。
- セルフタイマー撮影のときはシャッターボタンを深く押し込むとピントが固定されます。
- 他のAFモードに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

フォーカス固定のタイミング

1 **モードダイヤルを「SET UP」にする**

2 **▲で[カメラ1]（カメラ1）、▶/▲で[AFモード]を選ぶ**

3 **▶/▲/▼で希望のモードを選び、中央の●を押す**

被写体までの距離を設定する — フォーカスプリセット

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ設定して撮影するときや、網や窓ガラス越しの被写体の撮影など、オートフォーカスが効きにくいときにフォーカスプリセットを使うと便利です。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「[動画]」のいずれかにする

2 FOCUSボタンを押して、フォーカスプリセットに切り換える

FOCUSボタンを押すたびに次のように切り換わります。

フォーカスプリセット

↕

AF測距枠選択

フォーカスが固定され、手動フォーカス合わせ表示[F]が表示されます。

3 ジョグダイヤルでプリセットされているフォーカス設定を選ぶ

被写体までの距離は次の中から選べます。

0.1m、0.2m、0.3m、0.5m、0.8m、1.0m、1.5m、2.0m、3.0m、5.0m、7.0m、10m、15m、∞(無限遠)

オートフォーカスに戻すには

FOCUSボタンをもう一度押して、フォーカス距離表示を消してください。

- フォーカス距離の設定は多少の誤差を含んでいます。目安としてお使いください。
- レンズを上や下に向けると誤差は大きくなります。
- ズームをT側(望遠)にして、0.1m、0.2m、0.3mの選択時、フォーカスが正しく合わないことがあります。その場合、フォーカス距離情報が点滅します。点滅しなくなるまで、ズームをW側(広角)にしてください。
- シーンセレクションのモードによっては、選択できる距離が制限されます(**別冊基本編** → 37ページ)。
- 別売りコンバージョンレンズ装着時はフォーカスプリセットは正しく働きません。

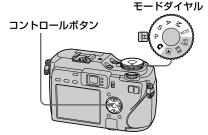
フラッシュモードを選ぶ

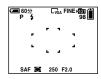
通常は自動で発光しますが、フラッシュモードを意図的に変えて撮影することができます。

オート(表示なし)
撮影状況により光量が足りないと判断した場合は自動的に発光します。
お買い上げ時はオートに設定されています。

強制発光(⚡)
周囲の明るさに関係なく発光します。

スローシンクロ(⚡SL)
周囲の明るさに関係なく発光します。暗い場所で撮影するときはシャッタースピードが遅くなり、フラッシュが届かない背景も明るく写すことができます。

発光禁止(🚫)
常に発光しません。

1 **モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする**

2 **▲(⚡)を繰り返し押し、希望のモードを選ぶ**
選択したフラッシュモードが拡大表示されます(98ページ)。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- フラッシュ推奨撮影距離はW側で約0.4 m〜3.0 m、T側で約0.4 m〜2.5 mです([ISO]が[オート]のとき)。
- ⚡SL(スローシンクロ)または🚫(発光禁止)のとき、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。
- フラッシュを充電している間は、CHG/⚡ランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、フラッシュ撮影ができます。
- フラッシュの発光量はメニューの[フラッシュレベル]で変えることができます(30ページ)。(モードダイヤルが「📷」のときは操作できません。)
- 本機には外部フラッシュを取り付けることができます(30ページ)。

目が赤く写らないようにするには

シャッターが切れる前にフラッシュが2回以上予備発光し、目が赤く写るのを軽減します。

「SET UP」の[赤目軽減]を[入]にしてください(98ページ)。液晶画面に👁が表示されます。

シャッターが切れるまで約1秒かかるので、カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。

また、被写体が動かないように声をかけてください。

- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。
  室内を明るくしたり被写体に近づくと、より効果があがります。

撮影のテクニック

フラッシュを活用すると表現の幅が広がります。

⚡(強制発光)に設定すると、逆光時に被写体が暗くならずに撮影できます。また、人物の瞳にフラッシュの光が写りこみ輝いて見える効果もあります。

フラッシュモードを「オート」に設定していると、撮影者の意図に関わりなくフラッシュが発光されてしまうことがあります。この場合、意図的に⊘(発光禁止)にすると、シャッタースピードが遅くなり、自動的にスローシャッターに設定されます。自動車の軌跡や光の残像を撮る場合や、夕景シーンを撮る場合などに効果的です。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

⚡SL(スローシンクロ)は、夕暮れ時に人物を撮影するときなどに効果的です。人物はフラッシュで明るくなり、背景は長時間露光できれいに撮影できます。スローシャッターでも対応できない場合には、ISO感度が自動的に上がります。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

フラッシュレベルを選ぶ

ー フラッシュレベル

フラッシュの発光量を調節することができます。

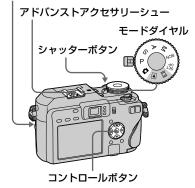
1 **モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で[±](フラッシュレベル)、▲/▼で希望のレベルを選ぶ**
＋：フラッシュの発光量を通常より多くする。
標準：通常の設定
ー：フラッシュの発光量を通常より少なくする。

- シーンセレクションのモードによっては、フラッシュレベルの設定ができない場合があります(**別冊基本編** ➡ 37ページ)。

外部フラッシュを使う

別売りの外部フラッシュを取り付けることができます。外部フラッシュを使うと光量が増えるため、より鮮明なフラッシュ撮影をすることができます。詳しくはお使いになるフラッシュに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 外部フラッシュと本機の内蔵フラッシュは同時に発光しません。
- 2つ以上の外部フラッシュを使用して撮影すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 外部フラッシュでの撮影時にホワイトバランスが合わない場合は、フラッシュを⚡(強制発光)、または⚡SL(スローシンクロ)にして、SET(ワンプッシュセット)で取り込んでから撮影してください(32ページ)。

ソニー製専用フラッシュを使う

本機のアドバンストアクセサリーシューには、ソニー製の専用フラッシュHVL-F32XまたはHVL-F1000を取り付けて使用することができます。HVL-F32Xは自動発光量調節、AF補助光による撮影機能も搭載しています。

1 アドバンストアクセサリーシューにお使いになるフラッシュを取り付ける

2 ACC端子にフラッシュのプラグを差し込む

HVL-F32Xをお使いになる場合は手順2は不要です。

3 フラッシュの電源を入れる

4 モードダイヤルを「」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

5 撮影する

市販のフラッシュを使う

本機のアドバンストアクセサリーシューには、市販の外部フラッシュを取り付けることもできます。

1 アドバンストアクセサリーシューに外部フラッシュを取り付ける

2 モードダイヤルを「SET UP」にする

3 ▲/▼で[](カメラ2)、▶/▼で[フラッシュ]、▶/▲で[外部]を選び、中央の●を押す

4 市販の外部フラッシュの電源を入れる

5 モードダイヤルを「M」または「A」にする

モードダイヤルが「」、「P」、「S」、「SCN」でもフラッシュは発光しますが、「M」または「A」での撮影をおすすめします。

6 撮影する

- 「SET UP」の[フラッシュ]を[内蔵]のまま撮影すると、内蔵フラッシュが持ち上がることがあります。そのときは、内蔵フラッシュを元に戻して、「SET UP」の[フラッシュ]を「外部」にしてください(98ページ)。
- [フラッシュ]が[外部]のときは、EXTが表示されます。このとき内蔵フラッシュは発光しません。
- 絞り値は、ご使用のフラッシュのガイドナンバーと被写体との距離から最も適した値を設定してください。
- フラッシュのガイドナンバーは、カメラのISO感度(23ページ)で変わります。ISO感度をご確認ください。
- 他社の特定のカメラ専用とされているフラッシュ(一般にアドバンストアクセサリーシューに複数の接点を持つフラッシュ)、高圧タイプのフラッシュ、およびフラッシュ用の付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 市販の外部フラッシュによっては、一部の機能が使用できなかったり、操作しにくいことがあります。

色合いを調節する

ー ホワイトバランス

通常は自動的に色合いの調節が行われますが、撮影条件に応じたモードを設定することができます。
被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。光源の撮影条件を固定したいときや画面全体が不自然な色合いのときは、ホワイトバランスの設定をおすすめします。

オート(表示なし)
ホワイトバランスが自動的に設定されます。お買い上げ時はオートに設定されています。
(色温度：約3000〜7000K(ケルビン))

(太陽光)
戸外で撮るときや夜景やネオン、花火や日の出、日没前後などを撮る場合
(色温度：約5500K(ケルビン))

(曇天)
くもり空のときに撮影する場合
(色温度：約6500K(ケルビン))

(蛍光灯)
蛍光灯の下で撮影する場合
(色温度：約4000K(ケルビン))

(電球)
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下

(色温度：約3200K(ケルビン))

WB(フラッシュ)
ホワイトバランスをフラッシュの光のみに合わせる場合
動画では使えません。
(色温度：約6000K(ケルビン))

(ワンプッシュ)
光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にする場合
(色温度：約2000〜10000K(ケルビン))

SET(ワンプッシュセット)
(ワンプッシュ)での基準になる「白」を取り込む場合

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[WB](ホワイトバランス)、▲/▼で希望の設定を選ぶ

自動調節に戻すには

手順3で「オート」を選んでください。

- ちらつきのある蛍光灯の下では、「」を選択してもホワイトバランスが合わないことがあります。
- フラッシュ発光時にはホワイトバランスのマニュアルの設定が解除され、オートモードで撮影されます。(「WB」または「」のときを除く。)

SET(ワンプッシュセット)で基準の「白」を取り込む

(ワンプッシュ)で撮影するときに、その撮影状況で基本になる「白」を本機に教えます。オートや他の設定で実際の色が上手く表現できないときなどに使用します。

1 [](ワンプッシュ)を選ぶ。

2 被写体を照らす照明条件と同じ所に白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。

3 ▲で[SET](ワンプッシュセット)を選ぶ。
SET表示が速い点滅に変わります。ホワイトバランスが調節されてカメラに記憶されると、[](ワンプッシュ)に戻ります。

- 表示が遅い点滅をしたときは、ホワイトバランスが未設定または設定できなかった場合を表しています。設定できなかった場合は「オート」で撮影してください。
- SET表示が速い点滅をしている間は、本機を動かさないでください。
- フラッシュモードが(強制発光)またはSL(スローシンクロ)の場合、フラッシュが発光した状態でホワイトバランスが調節されます。

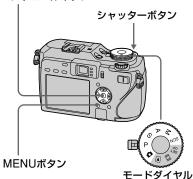
連写する

連続撮影するときに使います。最大連写枚数は、選択している画像サイズと画質によって変わります。

高速連写（）

短い撮影間隔（約0.4秒）で連写できます。

連写（）

撮影間隔（約1.0秒）は高速連写より長くなりますが、より多くの枚数を連写できます。

- バッテリーの残量が少ない、または記録メディアの容量がいっぱいになると、シャッターボタンを押し続けても撮影は停止します。

1 モードダイヤルを「」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で[高速連写]または[連写]を選ぶ

4 撮影する

シャッターボタンを押し続けると、最大枚数まで連写できます。途中でシャッターボタンを離すと撮影はそこで止まります。

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

最大連写枚数

高速連写 （単位：枚）

画質 ＼ 画像サイズ	ファイン	スタンダード
7M	8	8
3:2	8	8
5M	8	8
3M	8	8
1M	8	8
VGA（Eメール）	8	8

連写 （単位：枚）

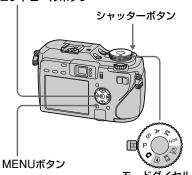
画質 ＼ 画像サイズ	ファイン	スタンダード
7M	15	28
3:2	15	28
5M	20	37
3M	31	57
1M	77	100
VGA（Eメール）	100	100

通常撮影に戻すには

手順3で[通常撮影]を選んでください。

- フラッシュは⚡(発光禁止)になります。
- セルフタイマー撮影ではシャッターボタンを1回押すと[高速連写]では最大8枚、[連写]では最大5枚の連続撮影になります。
- シーンセレクションのモードによっては、連写できない場合があります(**別冊基本編** ➡ 37ページ)。

16コマの画像を連写する – マルチ連写

1度のシャッターで16コマの画像を連写します。スポーツのフォームチェックなどに適しています。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[Mode](撮影モード)、▲/▼で[マルチ連写]を選ぶ

4 ◀/▶で[▦](インターバル)、▲/▼でコマ間の希望のインターバルを選ぶ

コマ間のインターバルは[1/7.5]秒、[1/15]秒、[1/30]秒から選ぶことができます。

5 撮影する

1枚の静止画の中に連続した16コマの画像を記録します(画像サイズ1M)。

静止画を撮る(応用)

- マルチ連写では下記の操作ができません。
  - スマートズーム
  - フラッシュ撮影
  - 日付・時刻の挿入
  - NIGHTFRAMING
- モードダイヤルが「📷」のとき、インターバルは[1/30]に固定されます。
- シャッタースピードは設定したインターバルよりも遅くすることはできません。
- マルチ連写で撮った画像を本機で再生するときは、46ページをご覧ください。
- マルチ連写の撮影枚数は93,94ページをご覧ください。
- シーンセレクションのモードによっては、マルチ連写できない場合があります（**別冊基本編** ➡ 37ページ）。

暗闇で撮る

NIGHTFRAMING/NIGHTSHOTボタンを押すたびに、ナイトフレーミング → ナイトショット → オフの順に切り換わります。

- 赤外線ライトの到達距離はW側で約2.3 mまで、T側で約2.2 mまでです。

NIGHTFRAMING（ナイトフレーミング）

夜間でも被写体を確認でき、フラッシュの発光による自然な色合いで撮影ができます。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」のいずれかにする

2 NIGHTFRAMING/NIGHTSHOTボタンでNIGHTFRAMINGにする

NFと"ナイトフレーミング"という表示が点灯します。"ナイトフレーミング"は約5秒後に消えます。

3 シャッターボタンを半押しする

フォーカスが自動的に調節されます。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「カシャッ」と音がしてフラッシュが光り、撮影されます。

解除するには

手順2で解除してください。

- NIGHTFRAMING中は、
  - ホワイトバランスはオートになります。
  - 測光モードはマルチパターン測光になります。
  - AF測距枠は表示されません。中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
  - 無効な操作をすると、[NF]が点滅し、“ナイトフレーミング”表示が約5秒間点灯します。
- NIGHTFRAMING中は以下の操作ができません。
  - 液晶画面オフ
  - AE LOCK
  - フォーカスプリセット
- シャッターボタンを半押しにした状態でカシャッと音がしますが、シャッターを切る音ではありません。このときはまだ撮影されていません。
- 「SET UP」で[ホログラフィックAF]が[切]のときはフォーカスが合わないことがあります。[オート]にすることをおすすめします(98ページ)。
- 以下の操作中はNIGHTFRAMINGはできません。
  - ブラケット
  - 連写
  - マルチ連写

NIGHTSHOT(ナイトショット)

夜間に動植物を観察するときやキャンプなど、暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときに使います。
ただし、NIGHTSHOTで撮影した画像は緑がかって記録されます。

1 モードダイヤルを「[カメラ]」、「P」、「[動画]」のいずれかにする

2 NIGHTFRAMING/NIGHTSHOTボタンでNIGHTSHOTにする

[ナイトショット]と“ナイトショット”という表示が点灯します。“ナイトショット”は約5秒後に消えます。

3 撮影する

解除するには

手順2で解除してください。

静止画を撮る(応用)

- NIGHTSHOT中は、
  - ホワイトバランスはオートになります。
  - 測光モードは中央重点になります。
  - 無効な操作をすると◉が点滅し、"ナイトショット"表示が約5秒間点灯します。
- NIGHTSHOT中は以下の操作ができません。
  - 液晶画面オフ
  - AE LOCK
  - ホログラフィックAF撮影
  - フラッシュ撮影
  - フォーカスプリセット
  - 彩度、コントラスト、シャープネス調節
- 昼間の屋外の明るいところでは使用しないでください。故障の原因になります。

特殊効果を加えて撮る

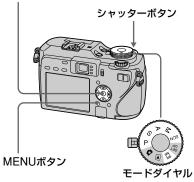
– ピクチャーエフェクト

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

モノトーン

白黒に

セピア

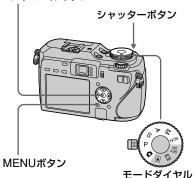
古い写真のような色合いに

1. モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする
2. MENUボタンを押す
   メニューが表示されます。
3. ◀/▶で[PFX](P.エフェクト)、▲/▼で希望のモードを選ぶ
4. 撮影する

ピクチャーエフェクトを解除するには

手順3で[切]を選んでください。

- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとは保持されません。

RAWデータで撮る
— RAWモード

撮影したデータをそのままの状態で記録するモードです。専用ソフトウェアを使うと、パソコンにデータを取り込んだあとに、画質劣化が非常に少ない画像処理でデータを復元し、表示することができます。通常記録される圧縮されたJPEG形式の画像も同時に記録します。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[Mode](撮影モード)、▲で[RAW]を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

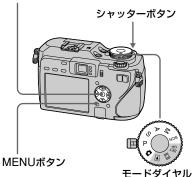
通常撮影に戻すには

手順3で[通常撮影]を選んでください。

- RAWデータをパソコンで復元するにはソフトウェアが必要です。付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Image Data Converter Ver.2.0」(Windows/Macintosh)、「PicturePackage」(Windows)または「Image Data Converter Ver.1.5」(Macintosh)をインストールしてください。RAWデータは特殊なファイルなので一般のアプリケーションでは画像を表示することができません。
- JPEG画像は、**別冊基本編** ➡ 22ページで選ばれている画像サイズで記録されます(ただし[3:2]は選べません)。RAWデータファイル画像は[7M]で記録されます。

- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- デジタルズームは使えません。
- RAWモードの撮影枚数は92、94ページをご覧ください。

画像を非圧縮で撮る
ー TIFFモード

撮影した画像データを圧縮しないファイル形式で記録するモードです。画質の劣化がほとんどありません。写真画質でのプリント時などに適しています。通常記録される圧縮されたJPEG形式の画像も同時に記録します。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[Mode](撮影モード)、▲/▼で[TIFF]を選ぶ

4 撮影する
「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順**3**で[通常撮影]を選んでください。

- JPEG画像は、**別冊基本編** ➡ 22ページで選ばれている画像サイズで記録されます。非圧縮(TIFF)画像は[3:2]を選んでいるとき以外は[7M]で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- TIFFモードの撮影枚数は92、94ページをご覧ください。

コンバージョンレンズを使う

別売りのコンバージョンレンズを使うと、より広角／望遠で撮影をすることができます。詳しくは、お使いになるコンバージョンレンズに付属の取扱説明書をご覧ください。

- **必ず本機の電源を切ってから、コンバージョンレンズの取り付け/取り外しをおこなってください。破損など故障の原因になります。**
- **内蔵フラッシュを使うとフラッシュの光をさえぎり、レンズの影が映る(ケラレる)ことがあります。ソニー製専用フラッシュのご使用をおすすめします。**

ソニー製ワイドエンドコンバージョンレンズVCL-DEH07VA使用上のご注意

- NIGHTFRAMING/NIGHTSHOTでの撮影はできません。
- 自動的に近接(マクロ)撮影になります。🌷は表示されません。
- ズームは使用できません。
- 内蔵のホログラフィックAFは使用できません。ソニー製専用フラッシュ HVL-F32Xのご使用をおすすめします。

ソニー製テレエンドコンバージョンレンズVCL-DEH17VA使用上のご注意

- ズームをT(望遠)側にしてお使いください。ズームをW(広角)側に動かすとケラレたり、ピントが合わないことがあります。
- NIGHTSHOTでの撮影時には、赤外線がケラレることがあります。ソニー製専用赤外線ライトHVL-IRMのご使用をおすすめします。
- NIGHTFRAMINGで撮影するには、ソニー製専用フラッシュ HVL-F32Xとソニー製専用赤外線ライトHVL-IRMを併用してください。ただし、画像が赤っぽくなることがあります。

花形レンズフードを使う

別売りの花形レンズフードを使うと、不要な光線をさえぎることができ、フレアなどによる画質の低下を防止できます。詳しくは、お使いになる花形レンズフードに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 内蔵フラッシュを使うとフラッシュの光をさえぎり、レンズの影が映る(ケラレる)ことがあります。ソニー製専用フラッシュのご使用をおすすめします。
- 内蔵のホログラフィックAF、赤外線がケラレることがあります。

フォルダを選択して再生する

再生したい画像の入っているフォルダを選択します。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［📁］（フォルダ）を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で再生したいフォルダを表示させる

5 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

再生フォルダの選択を中止するには

手順**5**で［キャンセル］を選んでください。

記録メディアに複数のフォルダがあるときは

フォルダの内の最初／最後の画像に下記のマークが表示されます。

↵: 前のフォルダに移動できます。

↳: 次のフォルダに移動できます。

↵↳: 前のフォルダにも、次のフォルダにも移動できます。

シングル画面のとき

インデックス（9枚表示）画面のとき

インデックス（16枚表示）画面のとき

- 再生フォルダ内に画像がないときは、「このフォルダにはファイルがありません」と表示されます。

静止画の一部を拡大する

画像を拡大する – 再生ズーム

撮影した画像を元の画像の5倍まで拡大することができます。
また、拡大した画像を新しいファイルとして記録することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で拡大したい画像を表示する

3 ⊕(再生ズーム)ボタンを押して、画像を拡大する

4 ▲/▼/◀/▶を繰り返し押して、拡大したい部分を選ぶ

▲：画像の上側を見るとき
▼：画像の下側を見るとき
◀：画像の左側を見るとき
▶：画像の右側を見るとき

5 ⊖/⊕(再生ズーム)ボタンで画像の大きさを調整する

拡大表示をやめるには

中央の●を押してください。

- 動画／マルチ連写画像は再生ズームできません。
- 拡大していない画像が表示されているときに⊖(再生ズーム)ボタンを押すと、インデックス画面に切り換わります(**別冊基本編** ➡ 39ページ)。
- クイックレビュー(**別冊基本編** ➡ 27ページ)で表示した画像も手順**3**から**5**の操作で拡大することができます。

拡大した画像を記録する
– トリミング

1 再生ズーム後にMENUボタンを押す

メニューが表示されます。

2 ▶で[トリミング]を選び、中央の●を押す

3 ▲/▼で画像サイズを選び、中央の●を押す

画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録フォルダに記録されます。元の画像はそのまま残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。
- RAWデータファイル／非圧縮(TIFF)画像はトリミングできません。
- クイックレビューで表示した画像はトリミングできません。

連続して再生する
– スライドショー

撮影した画像を順番に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[ ](スライドショー)を選び、中央の●を押す

▲/▼/◀/▶で下記の設定を選んでください。

間隔設定

3 秒／ 5 秒／ 10 秒／ 30 秒／ 1 分

再生画像

フォルダ内：選択しているフォルダ内の画像がすべて再生される。

全て：記録メディア内の画像がすべて再生される。

繰り返し

入：繰り返し再生される。

切：すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

4 ▼/▶で[スタート]を選び、中央の●を押す

スライドショーが始まります。

静止画を回転する

スライドショーの設定を中止するには

手順**3**で[キャンセル]を選んでください。

スライドショーの再生を中止するには

中央の●を押して、▶で[終了]を選び、●を押してください。

スライドショー再生中に画像を送る／戻すには

▶(送り)または◀(戻し)を押してください。

- [間隔設定]の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

カメラを縦にして撮影した画像を、回転して表示することができます。

1 **モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で[回転アイコン](回転)を選び、中央の●を押す**

4 **▲で[↶ ↷]を選び、◀/▶で画像を回転させる**

5 **▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す**

回転を中止するには

手順**4**または**5**で[キャンセル]を選んでください。

- プロテクトされている画像／動画／マルチ連写画像／RAWデータファイル／非圧縮(TIFF)画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

マルチ連写の画像を再生する

マルチ連写で撮影した画像を順番に再生したり、1コマずつ再生したりすることができます。画像のチェックなどに便利です。

- パソコンで再生すると撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。マルチ連写機能のないカメラで再生した場合も同様です。
- マルチ連写画像は分割できません。

連続して再生する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ

マルチ連写画像が順番に再生されます。

一時停止するには

中央の●ボタンを押してください。解除するときは、もう1度中央の●を押してください。表示されていたコマから連続再生が始まります。

1コマずつ再生する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ

マルチ連写画像が順番に再生されます。

3 コマ再生したい場所で中央の●を押す

コマ再生表示が表示されます。

4 ◀/▶で画像を送る

▶: 次のコマが表示されます。
押し続けるとコマが順送りされます。

◀: 前のコマが表示されます。
押し続けるとコマが逆送りされます。

連続再生に戻るには

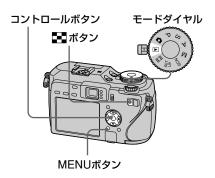
手順4で中央の●を押してください。表示されていたコマから連続再生が始まります。

撮影した画像を削除するには

マルチ連写で撮影した画像は希望のコマのみを削除することができません。削除を実行すると、16コマすべてが削除されます。

1 削除したいマルチ連写の画像を表示する。
2 ⁝/🗑(削除)ボタンを押す。
3 [削除]を選び、中央の●を押す。すべてのコマが削除されます。

画像を保護する
– プロテクト

大切な画像を誤って消さないように保護します。

- フォーマットするとプロテクトした画像も削除され元に戻せないのでご注意ください。
- プロテクトには時間がかかる場合があります。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする
2 ◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する
3 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。
4 ◀/▶で[O┳](プロテクト)を選び、中央の●を押す
表示されている画像にプロテクトがかかり、O┳(プロテクト)マークが付きます。

5 他の画像にもプロテクトをかけたいときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示し、中央の●を押す

プロテクト指定を解除するには

手順4または5でもう1度中央の●を押してください。O┳マークが消えます。

インデックス画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、▦(インデックス)ボタンを1回押してインデックス(9枚表示)画面にする

16枚表示するには▦(インデックス)ボタンを2回押します。

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[O-π](プロテクト)を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で[選択]を選び、中央の●を押す

5 プロテクトをかけたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に緑色のO-πマークが付きます。

6 他の画像にもプロテクトをかけたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

8 ▶で[実行]を選び、中央の●を押す

O-πマークが白色に変わり、選択した画像にプロテクトがかかります。

プロテクトを中止するには

手順4で[キャンセル]を、または手順8で[終了]を選び、中央の●を押してください。

プロテクト指定を解除するには

手順5でプロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押してください。O-πマークがグレーに変わります。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返してください。次にMENUボタンを押し、[実行]を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像をプロテクトするには

手順4で[フォルダ内全て]を選び、中央の●を押してください。次に[入]を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像のプロテクト指定を解除するには

手順4で[フォルダ内全て]を選び、中央の●を押してください。次に[切]を選び、中央の●を押してください。

画像のサイズを変える
– リサイズ

撮影した画像のサイズを変えて、新しいファイルとして記録できます。
7M、5M、3M、1M、VGAのサイズに変えられます。
リサイズしたあとも元の画像はそのまま残ります。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でサイズを変更したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

4 ◀/▶で[ ](リサイズ)を選び、中央の●を押す

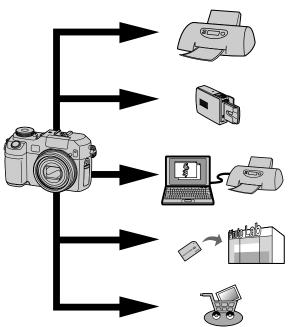
5 ▲/▼で変更したいサイズを選び、中央の●を押す
リサイズした画像は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

リサイズを中止するには

手順5で[キャンセル]を選んでください。

- 動画/マルチ連写画像/ RAWデータファイル/非圧縮(TIFF)画像はリサイズできません。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の上下に黒い帯が入ります。

静止画をプリントするには

本機で撮影した画像をプリントするには以下の方法があります。

ダイレクトプリント（PictBridge対応プリンター）（51ページ）

PictBridge対応プリンターに本機を直接接続してプリントします。

ダイレクトプリント（“メモリースティック”/CFカード対応プリンター）

“メモリースティック”またはCFカード対応プリンターでプリントします。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使ってプリント（70ページ）

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「PicturePackage」を使って画像をパソコンに取り込んでから、プリントします。プリンターの操作方法についてはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

お店でプリント（56ページ）

プリントサービス店に“メモリースティック”またはCFカードを持参します。プリントしたい画像にあらかじめプリント予約マークを付けることもできます。

オンラインプリント（70ページ）

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「PicturePackage」のオンラインプリント注文機能を使います。

ダイレクトプリントする

パソコンを持っていない場合でもPictBridge対応のプリンターを使えば、本機で撮影した画像を簡単にプリントすることができます。「SET UP」でUSB接続の設定をして、USBケーブルを使って本機とプリンターをつなぐだけです。
PictBridge対応のプリンターでは、インデックスプリント*もできます。

PictBridge

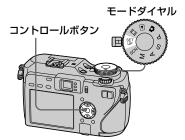
* インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。

- プリントの途中で電源が切れないようにするため、ACアダプターのご使用をおすすめします。
- 動画／RAWモードで撮影した画像はプリントできません。
- 非圧縮（TIFF）画像は、同時に記録されたJPEG画像のみプリントされます。
- プリンターと接続中、プリンターからエラー発生の通知がくると、が約5秒間点滅します。その場合は、接続しているプリンターを確認してください。
- プリント中に、/CFスイッチを切り換えるとプリントが中断される場合があります。ご注意ください。

シングルプリント

インデックスプリント

- 同じ画像を並べるときは、シングル画面で［この画像］を選択し、［インデックス］を［入］にしてください（53ページ）。
- プリンターによって、1枚のインデックスプリントに印刷される画像枚数は異なります。

本機とプリンターを接続するために USB接続の方法を設定します。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▼で[ ](設定2)を選び、▲/▼/▶で[USB接続]を選ぶ

3 ▶/▲で[PictBridge]を選び、中央の●を押す

USB接続が設定されました。

/CFスイッチで記録メディアを選んでください。

付属のUSBケーブルで本機の (USB)端子とプリンターのUSB端子を接続して本機とプリンターの電源を入れてください。

モードダイヤルの位置に関係なく、再生モードになり、選択されている再生フォルダの画像とプリントメニューが液晶画面に表示されます。

「SET UP」の[USB接続]を[PictBridge]に設定していないときは

本機の電源を入れてもPictBridgeの機能はご使用になれません。本機からUSBケーブルを抜き、[PictBridge]に設定し直してください(52ページ)。

本機とプリンターを接続すると、プリントメニューが表示されます。

1 ▲/▼で希望のプリント種類を選び、中央の●を押す

フォルダ内全て
フォルダ内のすべての画像をプリントする。

DPOF画像
表示されている画像と関係なく、(プリント予約)マーク(56ページ)が付いているすべての画像をプリントする。

選択
画像を順に選択する。選択されたすべての画像をプリントする。

1 プリントしたい画像を◀/▶で選び、中央の●を押す。

   選んだ画像に✔マークが付きます。

   - 他の画像も選択するには、この手順を繰り返してください。

2 ▼で[プリント]を選び、中央の●を押す。

この画像
表示されている画像をプリントする。

2 ▲/▼/◀/▶でプリント設定をする

インデックス

インデックスプリントをするときは[入]を選ぶ。

サイズ

用紙サイズを選ぶ。

日付

日付を挿入するときは[年月日]または[日時分]を選ぶ。

- 手順1で[この画像]を選んでインデックスプリントした場合、同じ画像が並びます。
- [日付]で[年月日]を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」(別冊基本編 ➡ 16ページ)で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。
- プリンターで対応していない項目は表示されません。

3 ▼で[枚数]、◀/▶でプリントする枚数を選ぶ

[インデックス]が[切]のとき：選択した画像の印刷枚数

[インデックス]が[入]のとき：インデックスプリントの印刷枚数。手順1で[この画像]を選んでいる場合は、同じ画像を1枚の用紙に並べる数になります。

- インデックスプリント時、並べる画像の数によっては1枚の用紙に収まらないことがあります。

4 ▼/▶で[実行]を選び、中央の●を押す

画像が印刷されます。

(USBケーブル抜き禁止)マークが画面に表示されているときは、USBケーブルを抜かないでください。

プリントを中止するには

手順1で[キャンセル]を、または手順4で[終了]を選んでください。

他の画像もプリントするには

手順4のあとでプリントしたい画像を◀/▶で選び、[プリント]を選んでください。

インデックス画面でプリントする

本機とプリンターを接続するとプリントメニューが表示されます。[キャンセル]を押してプリントメニューを消してください。

1 (インデックス)ボタンを1回押してインデックス (9枚表示)画面にする

16枚表示にするには (インデックス)ボタンを2回押します。

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ▶で[ ](プリント)を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で希望のプリント種類を選び、中央の●を押す

選択

画像を順に選択する。選択されたすべての画像をプリントする。

1 プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す。

選んだ画像に✔マークが付きます。

- 他の画像も選択するには、この手順を繰り返してください。

2 MENUボタンを押す。

DPOF画像

表示されている画像と関係なく、 (プリント予約)マーク(56ページ)が付いているすべての画像をプリントする。

フォルダ内全て

フォルダ内のすべての画像をプリントする。

5 ▲/▼/◀/▶でプリント設定をする

インデックス

インデックスプリントをするときは[入]を選ぶ。

サイズ

用紙サイズを選ぶ。

日付

日付を挿入するときは[年月日]または[日時分]を選ぶ。

- [日付]で[年月日]を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」(**別冊基本編** ➞ 16ページ)で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

6 ▼で[枚数]、◀/▶でプリントする枚数を選ぶ

[インデックス]が[切]のとき：選択した画像の印刷枚数

[インデックス]が[入]のとき：インデックスプリントの印刷枚数

- インデックスプリント時、並べる画像の数によっては1枚の用紙に収まらないことがあります。

7 ▼/▶で[実行]を選び、中央の●を押す

画像が印刷されます。

（USBケーブル抜き禁止）マークが画面に表示されているときは、USBケーブルを抜かないでください。

プリントを中止するには

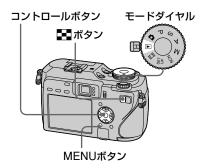
手順4で[キャンセル]を、または手順7で[終了]を選んでください。

お店でプリントする

お店でプリントする場合は、下記にご注意ください。

- どの種類の記録メディアに対応しているかプリントサービス店にお問い合わせください。
- “メモリースティック”またはCFカードに対応していないプリントサービス店をご利用の場合は、CD-Rなどにコピーしてお持ちください。
- プリントサービス店をご利用の場合は、必ずデータのバックアップをおとりください。

プリント予約マークを付ける

プリントしたい画像に本機であらかじめプリント予約マークを付けて、プリントサービス店に持参すると便利です。

- 動画／ RAWモードで撮影した画像にはプリント予約マークは付けられません。
- マルチ連写で撮影した画像は16分割された1枚の画像としてプリント予約マークが付きます。
- TIFFモードで撮影した画像にプリント予約マークを付けると、非圧縮（TIFF）画像のみプリントされ、同時に記録されたJPEG画像はプリントされません。
- プリント枚数の設定はできません。

シングル画面でプリント予約マークを付ける

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプリント予約したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で[DPOF](DPOF)を選び、中央の●を押す

表示されている画像に(プリント予約)マークが付きます。

5 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、◀/▶でプリント予約したい画像を表示し、中央の●を押す

プリント予約マークを消すには

手順4または5でもう1度中央の●を押してください。マークが消えます。

インデックス画面でプリント予約マークを付ける

1 モードダイヤルを「▶」にして、(インデックス)ボタンを1回押してインデックス(9枚表示)画面にする

16枚表示にするには(インデックス)ボタンを2回押します。

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[DPOF](DPOF)を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で[選択]を選び、中央の●を押す

- [フォルダ内全て]で、マークを付けることはできません。

5 プリント予約したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に緑色のマークが付きます。

6 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

8 ▶で[実行]を選び、中央の●を押す

マークが白色に変わり、設定が完了します。

プリント予約マークを消すには

手順5でマークを消したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像のプリント予約マークを消すには

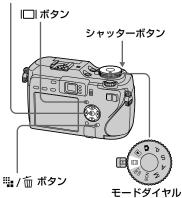
手順4で[フォルダ内全て]を選び、中央の●を押してください。次に[切]を選び、中央の●を押してください。

プリント予約マークを中止するには

手順4で[キャンセル]を、または手順8で[終了]を選んでください。

動画を撮る

音声付きの動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを「」にする

2 /（画像サイズ）ボタンを押す

画像サイズが表示されます。

3 ▲/▼で希望のサイズを選ぶ

［640（ファイン)］、［640（スタンダード)］、［160］から選べます。

- ［640(ファイン)］は"メモリースティック PRO"のみに記録できます。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「録画」と表示され、動画と音声の記録が始まります。

- 記録メディアの容量がいっぱいになると停止します。

5 録画を止めるには、シャッターボタンをもう 1 度深く押し込む

撮影中の画面上の表示は

動画には記録されません。
ボタンを押すたびに、画面表示オフ → 液晶画面オフ → 画面表示オンの順で変わります。
ヒストグラムは表示されません。
表示される項目について詳しくは、110ページをご覧ください。

近接(マクロ)撮影する

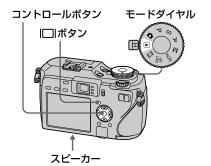
モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ━━ 29ページの手順に従ってください。

セルフタイマーで撮影する

モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ━━ 31ページの手順に従ってください。

- A/V OUT (MONO)端子にA/V接続ケーブル(付属)がつながっているとき、［640(ファイン)］に設定すると、液晶画面での撮影画像の表示ができません。液晶画面は青くなります。
- 動画撮影中は下記の操作ができません。
  - ーズーム倍率の変更
  - ーフラッシュ撮影
  - ー日付・時刻の挿入
- 各サイズによる記録時間については、93ページをご覧ください。

液晶画面で動画を見る

本機の液晶画面で動画を見ることができます。音声も本機のスピーカーから聞こえます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で見たい動画を選ぶ

画像サイズ[640(ファイン)]または[640(スタンダード)]で撮影した動画は液晶画面いっぱいに表示されます。

- 画像サイズ[160]で撮影した動画はひとまわり小さく表示されます。

3 中央の●を押す

動画と音声が再生されます。
再生中は▶(再生)が液晶画面に表示されます。

再生を止めるには

中央の●をもう1度押してください。

音量を調節するには

▲/▼で調節してください。

早送り／巻き戻しをするには

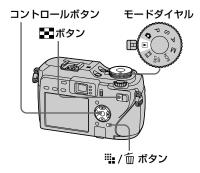
再生中に▶(送り)または◀(戻し)を押してください。
通常の再生に戻るには、中央の●を押してください。

動画再生中の画面上の表示は

ボタンを押すたびに、画面表示オフ → 液晶画面オフ → 画面表示オンの順で変わります。
ヒストグラムは表示されません。
表示される項目について詳しくは、112ページをご覧ください。

- 動画をテレビで見る方法は、静止画と同じです(**別冊基本編** ➡ 40ページ)。
- 当社従来モデルで撮影した動画を再生すると、ひとまわり小さく表示される場合があります。

動画を削除する

不要な動画を削除します。

- プロテクトした動画は削除できません。
- 1度削除すると元に戻せないのでご注意ください。

シングル画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にする**

2 **◀/▶で削除したい動画を表示する**

3 **/ (削除)ボタンを押す**

この時点ではまだ削除されていません。

4 **▲で[削除]を選び、中央の●を押す**

「アクセス中」という表示が出て、動画が削除されます。

5 **他の動画も削除するときは、◀/▶で削除したい動画を表示し、手順4を繰り返す**

削除を中止するには

手順4または5で[終了]を選んでください。

インデックス画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、(インデックス)ボタンを1回押してインデックス(9枚表示)画面にする**

16枚表示にするには(インデックス)ボタンを2回押します。

2 **/ (削除)ボタンを押す**

3 **◀/▶で[選択]を選び、中央の●を押す**

4 **削除したい動画を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**

選んだ動画に (削除)マークが付きます。

この時点ではまだ削除されていません。

5 他の動画も削除するときは、手順4を繰り返す

6 ⊞/🗑(削除)ボタンを押す

7 ▶で[実行]を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が出て、動画が削除されます。

削除を中止するには

手順3または7で[終了]を選んでください。

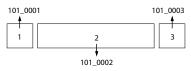
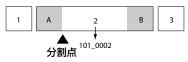
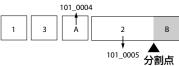
- フォルダ内のすべての画像を削除するには、**別冊基本編** ➡ 44ページをご覧ください。

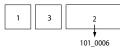
動画を分割する

撮影した動画を分割したり、不要な部分を削除することができます。
記録メディアの容量が足りないときやEメールに添付するときに便利です。
分割すると元の動画は削除されますので、ご注意ください。

分割したときのファイル番号は右記のようになります

分割した動画は、最新のファイルとして、それぞれ新しい番号を割り振られ、選択している記録フォルダに記録されます。
分割する前の元の動画は削除され、そのファイル番号は欠番になります。

〈例〉101_0002の動画を分割した場合

1 シーンAを切り離す

2 シーンBを切り離す

3 シーンAとBが不要なら削除する

4 必要なシーンだけが残る

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で分割したい動画を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ▶で[✂](分割)を選び、中央の●を押す。▲で[実行]を選び、中央の●を押す

動画が再生されます。

5 分割する位置を決める

分割したい位置で、中央の●を押します。

分割する位置を微調整したいときは、[◀II/II▶](コマ戻し／コマ送り)を選び、◀/▶で微調整してください。

分割する場所を選び直したいときは、[キャンセル]を選んでください。動画が再び再生されます。

6 分割する位置を決めたら、▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す

7 ▲で[実行]を選び、中央の●を押す

動画が分割されます。

分割を中止するには

手順5または7で[終了]を選んでください。再生画面に戻ります。

- 下記の画像は分割できません。
  - 静止画
  - 分割できる充分な長さ(約2秒以上)のない動画
  - プロテクトされている動画
- 1度分割した動画を元に戻すことはできません。
- 分割された動画は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

「Picture Package」と「ImageMixer VCD2」をインストールする

「Picture Package」はWindowsのみに対応しています。

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Picture Package」（ピクチャーパッケージ）を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンで活用できます。「Picture Package」のインストールを行うと、USBドライバのインストールも同時に行えます。

- パソコンを使用中の場合には、インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了してください。

Picture Packageに関するお問い合わせ
サポートはピクセラユーザーサポートセンターに委託しています。
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：**06-6633-3900**
受付時間：月〜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.ppackage.com/

Windowsの基本動作環境については**別冊基本編** ➡ 47ページをご覧ください。その他に下記の環境が必要になります。

必要なソフトウェア：Macromedia Flash Player 6.0以降、Windows Media Player 7.0以降、DirectX 9.0b以降
オンラインでプリント注文する場合は（70ページ）、Internet Explorer 5.5以降（5.5 SP2、6 SP1を推奨）
サウンドカード：16 bitステレオサウンドカードおよびスピーカー
メモリ：64 MB以上（128 MB以上を推奨）
ハードディスク：インストール時に必要な容量：約500 MB
ディスプレイ：4 MBのVRAMを搭載したビデオカード（Direct Drawドライバに対応）

- スライドショーを自動作成する場合は（69ページ）、Pentium III 500 MHz以上のCPUが必要です。
- 「ImageMixer VCD2」をお使いになる場合は、Pentium III 800 MHz以上のCPUを推奨します。
- 本ソフトウェアはDirectXテクノロジーに対応しています。ご使用の際にはDirectXのインストールが必要です。
- CD-Rに書き込みを行う場合には、記録デバイスが動作する環境が別途必要です。

RAWモードで撮影した画像を編集する場合、以下の環境が必要です。
OS：Microsoft Windows 98 Second Edition/Windows Millennium Edition/Windows 2000 Professional/Windows XP Home Edition/Windows XP Professional がプリインストールされたIBM PC/AT互換機（DOS/V機）
CPU：Intel MMX Pentium III 1 GHz以上を推奨
メモリ：256 MB以上

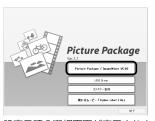
1 パソコンの電源を入れる

- USBドライバ単独でのインストール（**別冊基本編** → 48ページ）をしていない場合は、インストール前に本機をパソコンに接続しないでください（Windows XP以外）。
- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

2 CD-ROM（付属）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

インストールメニュー画面が表示されます。

インストールメニュー画面が表示されないときは、デスクトップ上の（マイ コンピュータ）→（PICTUREPACKAGE）の順にダブルクリックしてください。

3 「Picture Package/ImageMixer VCD2」をクリックする

設定言語の選択画面が表示されます。

4 「日本語」を選び、[次へ]をクリックする

5 [次へ]をクリックする

「使用許諾契約」画面が表示されます。

「使用許諾契約」の内容をよく読み、同意される場合は[使用許諾契約の全条項に同意します]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。

6 [次へ]をクリックする

7 「インストール準備の完了」画面の[インストール]をクリックする

インストールが始まります。
完了すると「ImageMixer VCD2 セットアップへようこそ」画面が表示されます。

8 [次へ]をクリックする。画面の指示に従ってインストールする

完了すると「ImageStation用のInstallShield Wizardへようこそ」画面が表示されます。

9 [次へ]をクリックする。「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら[完了]をクリックする

インストール完了後、「DirectXセットアップの開始」画面が表示された場合は、画面の指示に従ってインストールしてください。

10 [はい、今すぐコンピュータを再起動します]がチェックされていることを確認して、[完了]をクリックする

パソコンが再起動します。

デスクトップ上に「Picture Package Menu」と「Picture Package Menu取り込み先フォルダ」のショートカットが表示されます。

11 パソコンからCD-ROMを取り出す

「Picture Package」で画像をコピーする

- 通常は「マイ ピクチャ」フォルダ内に「Picture Package」、「日付」フォルダが作成され、その中に画像ファイルがすべてコピーされます。

別冊基本編 ➡ 52ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつないでください。

「Picture Package」が自動起動し、記録メディア内の画像がコピーされます。コピーが行われるとPicture Package Viewerが起動し、コピーされた画像が表示されます。

- 「Picture Package」で自動コピーが行えない場合は、「Picture Package Menu」を起動し、[自動取り込み]の中にある[設定]を確認してください。

「Picture Package」を使用する

デスクトップ上にある[Picture Package Menu]を起動させて画像を活用する方法を説明します。

- お使いのパソコンによっては初期画面が異なる場合があります。画面右下の[設定]でお好みの順に変更することができます。
- 詳しい使いかたについては、各画面右上にある❓をクリックして、ヘルプをご覧ください。

パソコン内の画像を見る

1 画面左側の[パソコン内の画像を見る]をクリックする

2 画面右下の[パソコン内の画像を見る]をクリックする

パソコン内の画像を見るための画面が表示されます。

- JPEG、TIFFファイルをはじめ、RAWファイルを表示することができます。RAWファイルについては、画像編集も可能です。付属の「Image Data Converter Ver.2.0」を使うと、トーンカーブやシャープネスなど、多彩なRAWデータ編集も可能です（71ページ）。

CD-Rに画像を保存する

1 画面左側の[CD-Rに画像を保存]をクリックする

2 画面右下の[CD-Rに画像を保存する]をクリックする

CD-Rに画像を保存するための画面が表示されます。

- CD-Rに画像を保存するには、CD-Rドライブが必要です。対応ドライブの情報はピクセラユーザーサポートセンターのホームページで確認できます。
  http://www.ppackage.com/

メニュー付きのビデオCDを作成する("ImageMixer VCD2")

「ImageMixer VCD2」は高精細静止画ビデオCDに対応しています。

1 画面左側の[ビデオ／スライドショーのビデオCDを作成する]をクリックする

2 画面右下の[ビデオ／スライドショーのビデオCDを作成する]をクリックする

「ImageMixer VCD2」画面が表示されます。

3 [Video CD]をクリックする

4 使用する画像の入ったフォルダを選択する

① 左画面からフォルダを選択し、[追加]をクリックする。
選択された画像フォルダが右画面に移動します。

② [次へ]をクリックする。

5 **メニューの背景やボタンの設定、タイトルなどを入力し、[次へ]をクリックする**

お好みに応じて入力してください。

6 **ビデオCDの再生確認をする**

① 左画面から再生したいファイルをクリックする。

② [▶]をクリックして再生する。

7 **[次へ]をクリックしてディスク名を入力する**

CD-RドライブにCD-Rを入れて[書き込み]をクリックすると書き込み用の画面が表示されます。

1 **画面左側の[Myスライドショーを自動作成]をクリックする**

2 **画面右下の[Myスライドショーを自動作成する]をクリックする**

Myスライドショーを作成するための画面が表示されます。

オンラインでプリント注文する

1 画面左側の[オンラインでプリント注文する]をクリックする

2 画面右下の[プリント注文へ進む]をクリックする

オンラインでプリント注文するための画面が表示されます。

- Windows 98には対応していません。
- インターネットに接続するための環境が必要です。
- イメージステーションのユーザー登録が必要です。登録の方法は、ヘルプをご覧ください。

画像をプリントする

1 「パソコン内の画像を見る」(67ページ)の操作を行い画像を一覧表示にする。

2 画像一覧からプリントしたい画像をダブルクリックする

3 画面上の ボタンをクリックする

印刷用画面が表示されます。

4 **画面左上の[印刷]ボタンをクリックして、[印刷]を選択する**

印刷ウィザードが表示されます。

5 **印刷用紙や枚数を設定して印刷する**

「Image Data Converter」を使用する

本機に付属のCD-ROM(Image Data Converter Ver.2.0)を使うと、「Picture Package」での画像補正(67ページ)の他に、トーンカーブやシャープネスなど多彩なRAWデータ編集が可能になります。

- パソコンを使用中の場合には、インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了してください。

Image Data Converterに関するお問い合わせサポートはピクセラユーザーサポートセンターに委託しています。
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：**06-6633-3900**
受付時間：月～日　午前9時～午後5時
(ただし、年末、年始、祝日を除く)
URL：http://www.ppackage.com/

Windowsの動作環境

OS：Microsoft Windows 98 Second Edition/Windows Millennium Edition/Windows 2000 Professional/Windows XP Home Edition/Windows XP ProfessionalがプリインストールされたIBM PC/AT互換機(DOS/V機)
CPU：Intel MMX Pentium III 1GHz以上を推奨
メモリ：256 MB以上
ディスプレイ：解像度は800×600ドット以上、High Color(16 bitカラー、65,000色)

* 800×600ドット未満、256色以下では正常に動作しません。

インストールする

1 パソコンの電源を入れる。

- ディスプレイの設定を800×600ドット以上、65000色モード以上にしてください。

2 CD-ROM（Image Data Converter Ver.2.0）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
設定言語の選択画面が表示されます。

3 ［日本語］を選び、［次へ］をクリックする。
「Image Data Converterセットアップへようこそ」画面が表示されます。

4 ［次へ］をクリックする。
「使用許諾契約」画面が表示されます。

5 ［使用許諾契約の全条項に同意します］にチェックを付け、［次へ］をクリックする。
ソフトウェア使用許諾契約書の内容をよくご確認ください。
「インストール先の選択」画面が表示されます。

6 インストール先のフォルダを確認し、［次へ］をクリックする。
「インストール準備の完了」画面が表示されます。

7 ［インストール］をクリックする。
インストールが終わると、「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されます。

8 ［完了］をクリックする。
インストール画面が閉じます。

- Image Data Converter Ver.2.0では、TIFF16bit形式での保存およびAdobeRGB色空間での保存はご使用になれません。

Macintoshで「ImageMixer VCD2」を使用する

「ImageMixer VCD2」はMacintosh（Mac OS X（v10.1.5）以降）にも対応しています。

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「ImageMixer VCD2」を使うと、パソコンに保存されている静止画や動画を素材として、ビデオCDを作成することができます。

- Macintosh版の「ImageMixer VCD2」ではディスクイメージ（ビデオCD形式でCD-Rに書き込みを行うためのデータ）作成までを行います。実際にビデオCD形式でCD-Rに保存する場合は、Roxio社のToast（別売り）が必要になります。
- パソコンを使用中の場合には、インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了してください。

ImageMixer VCD2に関するお問い合わせ
サポートはピクセラユーザーサポートセンターに委託しています。
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：06-6633-3900
受付時間：月〜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.ImageMixer.com/

Macintoshの動作環境

OS：Mac OS X（v10.1.5以降）
工場出荷時にインストールされていることが必要です。

CPU：iMac、eMac、iBook、PowerBook、Power Mac G3/G4シリーズ

メモリ：128 MB以上（256 MB以上を推奨）

ハードディスク：インストール時に必要な容量：約250 MB

ディスプレイ：1024×768ドット以上、32000色以上

- 工場出荷時にQuickTime 4以降がインストールされていることが必要です（QuickTime 5を推奨）。
- 推奨環境のすべてのパソコンの動作を保障するものではありません。

インストールする

1 パソコンの電源を入れる。
- ディスプレイの設定を1024×768ドット以上、32000色モード以上にしてください。

2 CD-ROM（付属）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

3 CD-ROMアイコンをダブルクリックする。

4 「MAC」フォルダの中の「IMXINST.SIT」をハードディスクアイコンにコピーする。

5 コピー先のフォルダの中の[IMXINST.SIT]をダブルクリックする。

6 解凍された[ImageMixer VCD2_Install]をダブルクリックする。

7 ユーザーの承認画面が表示されたら、お好みの名前とパスワードを入力する。
ソフトウェアのインストールが始まります。

メニュー付きのビデオCDを作成する（"ImageMixer VCD2"）

「ImageMixer VCD2」は高精細静止画ビデオCDに対応しています。

1 「アプリケーション」の中から「ImageMixer」フォルダを開く

2 「ImageMixer VCD2」をクリックする

3 68ページの手順3から6の操作を行う

4 [次へ]をクリックしてディスク名と保存先を入力する
CD-Rに保存する準備が完了します。

Macintoshで「Image Data Converter」を使用する

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Image Data Converter Ver.1.5」を使うと、RAWモードで撮影した画像を補正したり、汎用ファイル形式で保存することができます。さらに「Image Data Converter Ver.2.0」をインストールすると、トーンカーブやシャープネスなど、より多彩なRAWデータ編集が可能になります。

- パソコンを使用中の場合には、インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了してください。

Image Data Converterに関するお問い合わせサポートはピクセラユーザーサポートセンターに委託しています。
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：**06-6633-3900**
受付時間：月～日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.ppackage.com/

Macintoshの動作環境
OS：Mac OS X（v10.2.6 ～ v10.3.3）
CPU：Power PC G4以上
メモリ：256 MB以上
ディスプレイ：800×600ドット以上、32000色以上（800×600ドット未満、256色以下では正常に動作しません）

- 推奨環境のすべてのパソコンの動作を保障するものではありません。

インストールする

1 パソコンの電源を入れる。
- ディスプレイの設定を800×600ドット以上、32000色モード以上にしてください。

2 CD-ROM（付属）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
Ver.2.0をインストールするときは「Image Data Converter Ver.2.0」を、Ver.1.5をインストールするときは「USBドライバSPVD-012」をセットします。

3 CD-ROMアイコンをダブルクリックする。

4 ［MAC］フォルダ内の「IDCINST20.DMG.SIT」（Ver.2.0）または「IDCINST15.DMG.SIT」（Ver.1.5）をハードディスクにコピーする。

5 コピー先のフォルダの中の「IDCINST20.DMG.SIT」（Ver.2.0）または「IDCINST15.DMG.SIT」（Ver.1.5）をダブルクリックする。

6 解凍された「SONYIDC20 Install.pkg」(Ver.2.0)または「SONYIDC15 Install.pkg」(Ver.1.5)をダブルクリックする。
ソフトウェアのインストールが始まります。

- Image Data Converter Ver.2.0では、TIFF16bit形式での保存およびAdobeRGB色空間での保存はご使用になれません。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

1 76 〜 87ページの項目をチェックし、本機を点検する

液晶画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。91ページをご覧ください。

2 バッテリー／"メモリースティック"／CFカードカバーの内側にあるRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる
（この操作を行うと、日時などの設定は解除され、お買い上げ時の設定に戻ります。）

RESETボタン

3 デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページで確認する
http://www.sony.co.jp/support-di/

4 テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）

バッテリー・充電

症状	原因／処置
バッテリーが充電できない。	● 本機の電源が入っています。電源を切ってください（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
本機にバッテリーを入れられない。	● バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを液晶画面側に押しながら入れてください（**別冊基本編** ➡ 11ページ）。 ● 正しい向きにして入れてください（**別冊基本編** ➡ 11ページ）。
バッテリー充電中、CHG/⚡ランプが点滅する。	● バッテリーを正しく取り付けてください（**別冊基本編** ➡ 11ページ）。 ● バッテリーが故障しています。テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせてください（裏表紙）。 ● バッテリーが消耗しています。ACアダプターを1度抜き差ししてから、バッテリーを充電してください。

症状	原因／処置
バッテリー充電中、CHG/⚡ランプが点灯していない。	● ACアダプターがはずれています。きちんと接続し直してください(**別冊基本編** ➡ 11ページ)。 ● ACアダプターが故障しています。テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせてください(裏表紙)。 ● バッテリーを正しく取り付けてください(**別冊基本編** ➡ 11ページ)。 ● 充電が完了しています。 ● バッテリーが消耗しています。ACアダプターを1度抜き差ししてから、バッテリーを充電してください。
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	● 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているためです(104ページ)。 ● 残量表示機能と実際の残量にズレが生じたためです。バッテリーを使い切ってから充電すると、残量表示機能が正しくなります(**別冊基本編** ➡ 12ページ)。 ● バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(**別冊基本編** ➡ 11ページ)。 ● バッテリーそのものの寿命です(105ページ)。新しいバッテリーと交換してください。
バッテリーの消耗が早い。	● バッテリーそのものの寿命です(105ページ)。新しいバッテリーと交換してください。 ● 温度が極端に低いところで使用しているためです(104ページ)。 ● バッテリー端子が汚れています。綿棒などで掃除してから充電してください。 ● バッテリーの充電が終わったら、DCプラグを本機から取りはずしてください。
電源が入らない。	● バッテリーを正しく取り付けてください(**別冊基本編** ➡ 11ページ)。 ● ACアダプターがはずれています。きちんと接続し直してください(**別冊基本編** ➡ 14ページ)。 ● ACアダプターが故障しています。テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせてください(裏表紙)。 ● バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(**別冊基本編** ➡ 11ページ)。 ● バッテリーそのものの寿命です(105ページ)。新しいバッテリーと交換してください。
電源が途中で切れる。	● 操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。電源を入れ直すか、ACアダプターをお使いください(**別冊基本編** ➡ 14、15ページ)。 ● バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(**別冊基本編** ➡ 11ページ)。

静止画／動画を撮る

症状	原因／処置
電源を入れても液晶画面がつかない。	● 前回使用時に液晶画面をオフにしています。液晶画面をオンにしてください（**別冊基本編** → 33ページ）。
液晶画面に被写体が写らない。	● モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」または「🎞」にしてください（**別冊基本編** → 10ページ）。
動画撮影時、液晶画面が青くなって被写体が写らない。	● A/V OUT（MONO）端子にA/V接続ケーブルがつながった状態で、画像サイズが［640（ファイン）］に設定されています。A/V接続ケーブルを抜いてください。または、画像サイズを［640（ファイン）］以外にしてください。
フォーカスが合わない。	● 被写体が近すぎるためです。近接（マクロ）撮影モードにし、半押ししたときにAE/AFロック表示が点滅から点灯に変わるまで、最短撮影距離よりもカメラを離して撮影してください（**別冊基本編** → 29ページ）。 ● 静止画撮影時は、シーンセレクションの☽（夜景モード）または▲（風景モード）以外のモードを選んでください（**別冊基本編** → 35ページ）。 ● フォーカスプリセットになっています。オートフォーカスに戻してください（27ページ）。
光学ズームができない。	● 動画撮影中はズーム倍率を変更できません。 ● ワイドエンドコンバージョンレンズを装着している場合は、ズームは使用できません。
プレシジョンデジタルズームができない。	● 「SET UP」の［デジタルズーム］が［スマート］または［切］になっています。［プレシジョン］にしてください（6、98ページ、**別冊基本編** → 28ページ）。 ● RAWモードで撮影しています。RAWモードではプレシジョンデジタルズームは使えません（39ページ、**別冊基本編** → 28ページ）。 ● 動画モードになっています。解除してください。
スマートズームができない。	● 「SET UP」の［デジタルズーム］が［プレシジョン］または［切］になっています。［スマート］にしてください（6、98ページ、**別冊基本編** → 28ページ）。 ● 画像サイズが［7M］または［3:2］になっています。それ以外のサイズにしてください（**別冊基本編** → 22、28ページ）。 ● マルチ連写時はスマートズームは使えません（35ページ、**別冊基本編** → 28ページ）。 ● RAWモードで撮影しています。RAWモードではスマートズームは使えません（39ページ、**別冊基本編** → 28ページ）。 ● 動画モードになっています。解除してください。

症状	原因／処置
画像が暗い。	● 逆光になっています。測光モードを選んでください(17ページ)。露出を補正してください(18ページ)。またはフラッシュを強制発光にしてください(28ページ)。 ● 液晶画面が暗いので、LCDバックライトの明るさを調節してください(99ページ)。
画像が明るい。	● 舞台撮影など、暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影しています。露出を補正してください(18ページ)。 ● 液晶画面が明るいので、LCDバックライトの明るさを調節してください(99ページ)。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	● スミアという現象です。故障ではありません。
暗い場所で液晶画面を見ると画像にノイズが目立つ。	● 暗い場所でも確認できるように、液晶画面を一時的に明るくする機能が働いています。撮影される画像には影響ありません。
撮影できない。	● 記録メディアが入っていません。記録メディアを入れてください(**別冊基本編** ➡ 18ページ)。 ● 記録メディアの容量がいっぱいになっています。記録メディア内の不要な画像を削除してください(60ページ、**別冊基本編** ➡ 42ページ)。または、記録メディアを交換してください。 ● "メモリースティック"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっています。解除してください(102ページ)。 ● [メモリースティック]/CFスイッチを正しく設定してください(**別冊基本編** ➡ 18ページ)。 ● フラッシュ充電中は撮影できません。 ● 静止画撮影時は、モードダイヤルを「[カメラ]」、「P」、「S」、「A」、「M」または「SCN」にしてください(**別冊基本編** ➡ 10ページ)。 ● 動画撮影時は、モードダイヤルを「[動画]」にしてください(58ページ)。 ● 動画撮影時、画像サイズが[640(ファイン)]になっています。"メモリースティック PRO"を入れてください(58、102ページ)。または、画像サイズを[640(ファイン)]以外にしてください。
撮影に時間がかかる。	● NRスローシャッター機能が働いています(14ページ)。
NIGHTFRAMING/NIGHTSHOTモードを**切り換えたとき、または**NIGHTFRAMING**でシャッターボタンを軽く押したときに音がする。**	● レンズ動作の音です。故障ではありません。

困ったときは

症状	原因／処置
画像の色が正しくない。	● NIGHTFRAMINGまたはNIGHTSHOTになっています。解除してください(36、37ページ)。 ● ピクチャーエフェクトが設定されています。解除してください(38ページ)。
NIGHTFRAMINGまたはNIGHTSHOTができない。	● モードダイヤルを「 」、「P」または「 」(NIGHTSHOTのみ)にしてください(36、37ページ)。 ● フォーカスプリセットになっているときはNIGHTFRAMINGは使えません。オートフォーカスに戻してください(27ページ)。
フラッシュ撮影ができない。	● モードダイヤルを「 」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」にしてください(**別冊基本編** ➡ 10ページ)。 ● 設定が (発光禁止)になっています。オート(表示なし)、 (強制発光)または SL (スローシンクロ)にしてください(28ページ)。 ● 静止画撮影時は、シーンセレクションの (夜景モード)または (キャンドルモード)以外のモードを選んでください(**別冊基本編** ➡ 35ページ)。 ● シーンセレクションの (風景モード)、 (スノーモード)、 (ビーチモード)が選ばれているときは、 (強制発光)にしてください(**別冊基本編** ➡ 35ページ)。 ● [Mode](撮影モード)が[連写]、[高速連写]、[ブラケット]または[マルチ連写]になっています。[通常撮影]にしてください。 ● 内蔵フラッシュを使用中、「SET UP」の[フラッシュ]が[外部]になっている。
フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした丸い斑点が写っている。	● 空気中のホコリがフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。
近接(マクロ)撮影ができない。	● 静止画撮影時は、シーンセレクションの (夜景モード)、 (風景モード)または (キャンドルモード)以外のモードを選んでください(**別冊基本編** ➡ 35ページ)。
連写できない。	● 記録メディアの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(60ページ、**別冊基本編** ➡ 42ページ)。または、記録メディアを交換してください。 ● バッテリーに充分な残量がないため、1枚しか撮れません。充電されたバッテリーを取り付けてください。
被写体の目が赤く写る。	● 赤目軽減モードにしてください(29、98ページ)。 ● 被写体に近づいてフラッシュ推奨撮影距離(**別冊基本編** ➡ 31ページ)内で撮影してください。 ● 室内を明るくして撮影してください。
正しい撮影日時が記録されない。	● 日付・時刻を合わせてください(98ページ、**別冊基本編** ➡ 16ページ)。

症状	原因／処置
シャッターを半押しするとF値、シャッタースピードが点滅する。	● 露出が合っていないので、補正してください（18ページ）。
ファインダー内に模様が見える。	● ファインダーの構造によるものです。故障ではありません。

画像を見る

症状	原因／処置
再生できない。	● モードダイヤルを「▶」にしてください（**別冊基本編** ➞ 10ページ）。 ● パソコンでフォルダ／ファイルの名前を変更したためです（**別冊基本編** ➞ 62ページ）。 ● パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。 ● USBモードになっています。USB接続を終了してください（**別冊基本編** ➞ 58、63ページ）。
表示直後に再生画像が粗い。	● 画像処理のため、表示直後に画像が粗くなります。故障ではありません。
テレビに画像が出ない。	● 「SET UP」の［ビデオ信号出力］が［PAL］になっています。［NTSC］にしてください（100ページ）。 ● 接続が正しくありません。確認してください（**別冊基本編** ➞ 40ページ）。 ● USB端子が接続されています（**別冊基本編** ➞ 52ページ）。**別冊基本編** ➞ 58ページ❗、または63ページ❶の手順に従ってUSBケーブルを抜いてください。
パソコンで再生できない。	● 83ページをご覧ください。

画像を削除する／編集する

症状	原因／処置
削除できない。	• 画像がプロテクトされています。解除してください(47ページ)。 • “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっています。解除してください(102ページ)。
誤って消してしまった。	• 画像にプロテクトをかけると、誤消去を防げます(47ページ)。 • “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤消去を防げます。
リサイズができない。	• 動画／マルチ連写画像／ RAWデータファイル／非圧縮(TIFF)画像はリサイズできません。
プリント予約マークが付かない。	• 動画／ RAWモード撮影した画像にはプリント予約マークを付けられません。
動画を分割できない。	• 分割できる充分な長さのない動画は分割できません。 • プロテクトされている動画は分割できません。プロテクトを解除してください(47ページ)。 • 静止画は分割できません。

パソコン

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/support-di/

症状	原因／処置
対応しているOSが分からない。	• 「パソコンの推奨使用環境」を確認してください(**別冊基本編** ➡ 47、63ページ)。
USBドライバをインストールできない。	• Windows 2000を使用している場合は、Administrator(管理者権限)でログオンしてください(**別冊基本編** ➡ 48ページ)。
本機がパソコンに認識されない。	• 本機の電源を入れてください(**別冊基本編** ➡ 15ページ)。 • バッテリー残量が少ないので、ACアダプターを使用してください(**別冊基本編** ➡ 14ページ)。 • 付属のUSBケーブルを使ってください(**別冊基本編** ➡ 52、63ページ)。 • 1度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再度しっかりと差し込み、「USBモード」と表示されているか確認してください(**別冊基本編** ➡ 52ページ)。 • 「SET UP」の[USB接続]を[標準]にしてください。 • パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されています。キーボード／マウス以外は取りはずしてください(**別冊基本編** ➡ 47ページ)。 • 本機がパソコン本体に直接接続されていません。USBハブ経由などで接続せずに本機とパソコンを直接接続してください(**別冊基本編** ➡ 47ページ)。 • USBドライバをインストールしてください(**別冊基本編** ➡ 48ページ)。 • CD-ROM(付属)から「USBドライバ」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていません。正しく認識されなかったデバイスを削除してから、USBドライバをインストールしてください(**別冊基本編** ➡ 48、55ページ)。
画像をコピーできない。	• 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(**別冊基本編** ➡ 52ページ)。 • お使いのOSに対応した手順でコピーしてください(66ページ、**別冊基本編** ➡ 53、56、63ページ)。 • パソコンでフォーマットした記録メディアで撮影したためです。本機でフォーマットした記録メディアで撮影してください。
USB接続をしたときに「Picture Package」が自動起動しない。	• 「Picture Package Menu」を起動し、[設定]を確認してください。 • パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください(**別冊基本編** ➡ 52ページ)。

症状	原因／処置
画像を再生できない。	• RAWモードで撮影した画像を再生するときは、付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールしてください(39ページ)。 • 「Picture Package」ソフトウェアをお使いの場合は、各画面右上にあるヘルプをご覧ください。 • パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
動画を再生すると画像や音が途切れる。	• 記録メディアから直接再生しているためです。パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生してください(66ページ、**別冊基本編** → 53、56、63ページ)。
画像を印刷できない。	• プリンターの設定を確認してください。
パソコンからコピーした画像ファイルが本機で見られない。	• 間違ったフォルダにコピーしています。101MSDCFなど本機で認識するフォルダにコピーしてください(**別冊基本編** → 62ページ)。 • パソコンでフォルダ／ファイルの名前を変更したためです(**別冊基本編** → 62ページ)。

“メモリースティック”

症状	原因／処置
本機に入らない。	• “メモリースティック”を入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください(**別冊基本編** → 19ページ)。
記録できない。	• “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっています。解除してください(102ページ)。 • “メモリースティック”の容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(60ページ、**別冊基本編** → 42ページ)。 • /CFスイッチが「CF」になっています。「」にしてください(**別冊基本編** → 18ページ)。 • 動画撮影時、画像サイズが[640(ファイン)]になっています。“メモリースティック PRO”を入れるか(58、102ページ)、画像サイズを[640(ファイン)]以外にしてください。
フォーマットできない。	• “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっています。解除してください(102ページ)。
誤ってフォーマットしてしまった。	• フォーマットすると、“メモリースティック”内のデータはすべて消去され、元に戻せません。“メモリースティック”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤フォーマットを防げます(102ページ)。

CFカード

症状	原因／処置
本機に入らない。	● 本機では使えないCFカードを入れようとしています（**別冊基本編** → 18ページ）。 ● CFカードを入れる向きが違っている。CFカードを正しい向きにして入れてください（**別冊基本編** → 20ページ）。
記録できない。	● CFカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください（60ページ、**別冊基本編** → 42ページ）。 ● 本機では使えないCFカードが入っています。 ● /CFスイッチが「」になっています。「CF」にしてください（**別冊基本編** → 18ページ）。 ● CFカードでの動画撮影時、画像サイズが［640（ファイン）］になっています。“メモリースティック　PRO”を入れるか（58、102ページ）、画像サイズを［640（ファイン）］以外にしてください。
誤ってフォーマットしてしまった。	● フォーマットすると、CFカード内のデータはすべて消去され、元に戻せません。

PictBridge対応プリンター

症状	原因／処置
プリンターと接続できない。	● プリンターがPictBridgeに対応しているかどうか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。 ● プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることを確認してください。 ● 「SET UP」の［USB接続］を［PictBridge］にしてください（100ページ）。 ● 接続状態によっては、接続が確立できない場合があります。USBケーブルを抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
プリントできない。	● プリンターと接続されていません。本機とプリンターがUSBケーブルで正しく接続されているかどうかを確認してください。 ● プリンターの電源を入れてください。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。 ● プリント中に「終了」を選ぶと、プリンターによっては再度印刷できない場合があります。USBケーブルを抜いて、接続し直してください。それでも復帰しないときは、USBケーブルをもう1度抜き、プリンターの電源を入れ直してから接続し直してください。 ● 動画／ RAWモードで撮影した画像はプリントできません。 ● 本機以外で撮影した静止画、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合があります。

症状	原因／処置
プリントが中断される。	● (USBケーブル抜き禁止)マークが消える前に、USBケーブルを抜いたためです。 ● 操作の途中で /CFスイッチを切り換えたためです。
日付挿入／インデックスプリントができない。	● プリンターが日付挿入／インデックスプリントに対応しているかどうか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。 ● プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合があります。プリンターのメーカーにお問い合わせください。
プリントしたい用紙サイズが選択できない。	● プリンターがプリントしたい用紙サイズに対応しているかどうか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
日付部分に「---- -- --」などが印刷される。	● 印刷可能な撮影日時情報が入っていない画像ファイルでは、日付の印刷を行うことができません。[日付]を[切]に設定して印刷してください。
プリンターの用紙サイズ通りに印刷できない。	● 本機とプリンターを接続した後にプリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り換えた場合は、1度USBケーブルを抜いて本機とプリンターを接続し直してください。 ● 本機での印刷設定とプリンターの設定が合っていません。用紙サイズを変更してください(53、55ページ)、またはプリンターの設定を変更してください。
印刷を中止すると他の操作ができない。	● プリンターが印刷中止を処理しているので完了するまでお待ちください。(プリンターによって時間がかかる場合があります。)

その他

症状	原因／処置
操作を受け付けない。	● "インフォリチウム"バッテリーを使っていないためです。バッテリーは必ず"インフォリチウム"バッテリーを使ってください(104ページ)。 ● バッテリーが残り少ない(表示が出る)ので充電してください(**別冊基本編** ➡ 11ページ)。 ● ACアダプターをDC IN端子とコンセントにしっかり差し込んでください(**別冊基本編** ➡ 14ページ)。
電源が入っているのに操作できない。	● 内部システムの誤動作です。電源を取りはずし、約1分後再び電源をつなぎ、本機の電源を入れてください。これでも操作できないときは、バッテリー／"メモリースティック"／ CFカードカバー内側のRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れてください。(この操作をすると日時などの設定が解除されます。)(76ページ)

症状	原因／処置
液晶画面上の表示が分からない。	● 表示の種類を確認してください(108 ～ 112ページ)。
レンズがくもる。	● 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください(101ページ)。
長時間使用すると、本機が熱くなる。	● 故障ではありません。
電源を切ってもレンズが収納されない。	● バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けるか(**別冊基本編** ➡ 11ページ)、ACアダプターを使用してください(**別冊基本編** ➡ 14ページ)。

警告表示について

液晶画面には次のような表示が出ることがあります。

表示	意味／処置
メモリースティックがありません	● "メモリースティック"を入れてください（**別冊基本編** → 19ページ）。 ● [メモリースティックのマーク]/CFスイッチを「CF」にして、CFカードで撮ってください。
システムエラー	● 電源を入れ直してください（**別冊基本編** → 15ページ）。
メモリースティックエラー	● 本機では使えない"メモリースティック"が入っている（102ページ）。 ● "メモリースティック"が壊れている。 ● "メモリースティック"の端子部が汚れている。 ● "メモリースティック"を正しく入れてください（**別冊基本編** → 19ページ）。
非対応のメモリースティックです	● 本機では使えない"メモリースティック"が入っている（102ページ）。
読み出し専用のメモリースティックです	● 本機ではこの"メモリースティック"への画像記録や消去はできません。
メモリースティックがロックされています	● "メモリースティック"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。解除してください（102ページ）。
メモリースティックの残量がありません	● "メモリースティック"の空き容量が足りないので記録ができない。不要な画像やデータを削除してください（60ページ、**別冊基本編** → 42ページ）。
CFカードがありません	● CFカードを入れてください（**別冊基本編** → 20ページ）。 ● [メモリースティックのマーク]/CFスイッチを「[メモリースティックのマーク]」にして、"メモリースティック"で撮ってください。
CFカードエラー	● 本機では使えないCFカードが入っている（**別冊基本編** → 18ページ）。 ● CFカードが壊れている。 ● CFカードの端子部が汚れている。 ● CFカードを正しく入れてください（**別冊基本編** → 20ページ）。
非対応のCFカードです	●本機では使えないCFカードが入っている（**別冊基本編** → 18ページ）。
CFカードがロックされています	● CFカードが記録できない状態になっている。CFカードの取扱説明書をご覧ください。
CFカードの残量がありません	● CFカードの空き容量が足りないので記録ができない。不要な画像やデータを削除してください（60ページ、**別冊基本編** → 42ページ）。

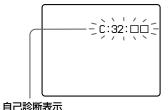
表示	意味／処置
フォーマットエラー	● 記録メディアが正しくフォーマットされていない。フォーマットし直してください(**別冊基本編** → 44ページ)。 ● コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック　デュオ　アダプターご使用時、誤消去防止スイッチのある"メモリースティック　デュオ"のスイッチが「LOCK」になっている。解除してください。
"インフォリチウム"バッテリーを使ってください	● "インフォリチウム"対応以外のバッテリーを使っている。
画像サイズオーバーです	● 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。
	● バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電してください(**別冊基本編** → 11ページ)。ご使用状況やバッテリーパックの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。
このフォルダにはファイルがありません	● フォルダ内に画像が記録されていない。
フォルダエラー	● 上3桁の番号が同じフォルダが記録メディア内にある(例：123MSDCFと123ABCDE)。別のフォルダを選択するかフォルダを作成してください。
これ以上フォルダ作成できません	● 上3桁の番号が「999」のフォルダが記録メディア内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。
記録できません	● 本機で記録フォルダに設定できないフォルダを選択した。他のフォルダを選択してください(9ページ)。
	● 光量が不足している、またはシャッタースピードが遅く設定されているため手ぶれが起こりやすくなっている。フラッシュを使うか、三脚などで本機をしっかりと固定してください。
電源を入れ直してください	● レンズの誤動作。
"ナイトショット"	● NIGHTSHOT時に無効な操作をした。
"ナイトフレーミング"	● NIGHTFRAMING時に無効な操作をした。
640(ファイン)に対応していません	● [640(ファイン)]の動画に対応しているのは"メモリースティック　PRO"のみです。"メモリースティック　PRO"を入れてください。または画像サイズを[640(ファイン)]以外に設定してください。
ファイルエラー	● 画像再生時の異常。
ファイルがプロテクトされています	● 画像にプロテクトがかけられている。プロテクトを解除してください(47ページ)。

表示	意味／処置
分割できません	● 分割できる充分な長さ(約2秒以上)がない。 ● 動画ではない。
無効な操作です	● 本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
接続先を確認してください	● 本機の設定が[PictBridge]になっているのに、PictBridgeに対応していない機器と接続している。接続している機器を確認してください。 ● 接続状況によっては接続が確立できない場合がある。USBケーブルを抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
機器と接続してください	● プリンターと接続する前にプリントしようとした。PictBridge対応のプリンターと接続してください。
プリントできる画像がありません	● プリント予約マークを付けないで[DPOF画像]を実行しようとした。 ● 動画／ RAWモードで撮影した画像しか入っていないフォルダを選んで、[フォルダ内全て]を実行しようとした。動画／ RAWモードで撮影した画像はプリントできません。
プリンタービジー	● 接続しているプリンターが印刷中などで、印刷要求を受け付けることができない。接続しているプリンターを確認してください。
用紙エラー	● 接続しているプリンターが、用紙切れ、紙詰まりなどの用紙に関するエラーを起こしている。接続しているプリンターを確認してください。
インクエラー	● 接続しているプリンターが、インクに関するエラーを起こしている。またはインクがなくなったか、少なくなっている。接続しているプリンターを確認してください。
プリンターエラー	● プリンターからエラー発生の通知がきている。接続しているプリンターを確認してください。または、プリントしたい画像が壊れていないか確認してください。
	● 接続しているプリンターへのデータ転送が完了していない可能性がある。USBケーブルを抜かないでください。
処理中	● プリンターが印刷中止処理を行っている。処理が完了するまでは印刷できません。プリンターによっては処理に時間がかかることがあります。

自己診断表示

ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能が付いています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。詳しくは右の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁(□□)の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェアの異常。	電源を入れ直す(**別冊基本編** ➡ 15ページ)。
C:13:□□	データが読めない/書けない。	記録メディアを数回抜き差しする。
	フォーマットしていない記録メディアを入れた。	フォーマットする(**別冊基本編** ➡ 44ページ)。
	本機では使えない記録メディアを入れた。またはデータが壊れている。	記録メディアを交換する(**別冊基本編** ➡ 18ページ)。
E:61:□□ E:91:□□	何らかの異常が起きている。	バッテリー/"メモリースティック"/CFカードカバー内側のRESETボタンを押してから、電源を入れる(76ページ)。

「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、修理が必要な場合があります。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください(裏表紙)。

記録枚数／時間について

記録メディアの容量、画像サイズ、画質によって記録できる枚数、時間が異なります。
表を参考に用途に応じて記録メディアをお選びください。

- 撮影枚数はファイン（スタンダード）の順で記載しています。
- 記録枚数／時間は撮影状況によっては数値と異なる場合があります。
- 通常撮影時の記録枚数については**別冊基本編** ➡ 24ページをご覧ください。
- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、「>9999」と表示されます。
- 次の表は、本機でフォーマットした記録メディアに記録できる撮影枚数、時間の目安です。

"メモリースティック"

RAW　　（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
7M	0 (0)	1 (1)	3 (3)	6 (7)	12 (13)	25 (27)	51 (56)
3:2	–	–	–	–	–	–	–
5M	0 (0)	1 (1)	3 (3)	7 (7)	12 (13)	26 (28)	53 (57)
3M	0 (0)	1 (1)	3 (3)	7 (7)	13 (14)	27 (28)	56 (59)
1M	0 (1)	1 (2)	3 (4)	8 (8)	14 (14)	29 (29)	60 (61)
VGA (Eメール)	1 (1)	2 (2)	4 (4)	8 (8)	14 (15)	30 (30)	61 (62)

TIFF　　（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
7M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	9 (10)	19 (20)	39 (42)
3:2	0 (0)	1 (1)	2 (3)	5 (6)	10 (11)	21 (23)	43 (46)
5M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	9 (10)	20 (21)	40 (42)
3M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	10 (10)	20 (21)	42 (43)
1M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	10 (10)	21 (22)	44 (44)
VGA (Eメール)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	10 (10)	22 (22)	45 (45)

マルチ連写 **（単位：枚）**

	16MB	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
1M	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)	1482 (2694)

動画

	16MB	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
640（ファイン）	–	–	–	–	0:02:57	0:06:02	0:12:20
640（スタンダード）	0:00:42	0:01:27	0:02:56	0:05:54	0:10:42	0:21:47	0:44:27
160	0:11:12	0:22:42	0:45:39	1:31:33	2:51:21	5:47:05	11:44:22

記録時間の読みかた：例えば[1:31:33]は、1時間31分33秒です。

- 画像サイズは下記になります。

640（ファイン）：640×480
640（スタンダード）：640×480
160：160×112

CFカード

RAW（単位：枚）

	1GB
7M	53 (59)
3:2	–
5M	56 (60)
3M	59 (62)
1M	63 (64)
VGA（Eメール）	65 (65)

TIFF（単位：枚）

	1GB
7M	41 (44)
3:2	45 (49)
5M	43 (45)
3M	44 (46)
1M	46 (47)
VGA（Eメール）	47 (48)

マルチ連写（単位：枚）

	1GB
1M	1563 (2842)

動画

	1GB
640（ファイン）	–
640（スタンダード）	0:46:53
160	12:30:14

記録時間の読みかた：例えば
[12:30:14]は、12時間30分14秒です。

- 画像サイズは下記になります。
  640（ファイン）：640×480
  640（スタンダード）：640×480
  160：160×112
- 2 GBを超える記録メディアをご使用の場合でも、1回の連続撮影で記録可能な最大ファイルサイズは2 GBまでとなります。

メニュー項目について

モードダイヤルの位置や設定によって操作できる項目は変わります。
ここで選んだ設定は、電源を切ったあとやモードダイヤルの位置を変えても保持されます（P.エフェクト以外）。
■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」のとき

項目	設定	意味
Mode（撮影モード）	RAW TIFF マルチ連写 高速連写 連写 ■通常撮影	– JPEGファイルと別にRAWデータファイルを記録する（39ページ）。 – JPEGファイルと別に非圧縮（TIFF）ファイルを記録する（40ページ）。 – 1枚の静止画の中に連続した16コマの画像を記録する（35ページ）。 – 短い撮影間隔で連写する（34ページ）。 – より多くの枚数を連写する（34ページ）。 – 通常の撮影をする。

モードダイヤルが「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のとき

項目	設定	意味
SCN（シーン）	／／／／／／	シーンセレクションを設定する（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。（「SCN」以外のときは設定できません。）
（測光モード）	スポット／中央重点／■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる（17ページ）。測光枠を設定する。
WB（ホワイトバランス）	SET／／WB／／／ ／／■オート	ホワイトバランスを設定する（32ページ）。
ISO[1]	800 ／ 400 ／ 200 ／ 100 ／ ■オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所や高速で移動する被写体の撮影には大きい値を、高画質を得るには小さい値を選ぶ。 • ISO感度の値が大きくなるほどノイズ感が増します。
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する／標準の画質で記録する（7ページ）。

その他

項目	設定	意味
Mode(撮影モード)[1]	RAW TIFF マルチ連写 ブラケット 高速連写 連写 ■通常撮影	– JPEGファイルと別にRAWデータファイルを記録する(39ページ)。 – JPEGファイルと別に非圧縮(TIFF)ファイルを記録する(40ページ)。 – 1枚の静止画の中に連続した16コマの画像を記録する(35ページ)。 – 3通りの異なった露出で、静止画を3枚撮影する(22ページ)。 – 短い撮影間隔で連写する(34ページ)。 – より多くの枚数を連写する(34ページ)。 – 通常の撮影をする。
BRK(ブラケット設定)[2]	±1.0EV/■±0.7EV/±0.3EV	露出を変えて3枚の画像を撮影するときの露出補正量を設定する(22ページ)。([Mode](撮影モード)が[ブラケット]以外のときは設定できません。)
(インターバル)[2]	1/7.5/1/15/■1/30	マルチ連写のシャッター間隔を設定する(35ページ)。([Mode](撮影モード)が[マルチ連写]以外のときは設定できません。)
±(フラッシュレベル)[3]	+/■標準/–	フラッシュの発光量を調節する(30ページ)。
PFX(P.エフェクト)	モノトーン/セピア/■切	画像の特殊効果を設定する(38ページ)。
(彩度)[4]	+/■標準/–	画像の彩度を調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。
(コントラスト)[4]	+/■標準/–	画像のコントラストを調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。
(シャープネス)[4]	+/■標準/–	画像のシャープネスを調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。

[1] モードダイヤルが「SCN」に設定されているときは、設定できる項目が限定されます。

[2] 「SCN」が(夜景モード)、(夜景+人物モード)、(キャンドルモード)に設定されているときは表示されません。

[3] 「SCN」が(夜景モード)、(キャンドルモード)に設定されているときは表示されません。

[4] モードダイヤルが「SCN」に設定されているときは表示されません。

モードダイヤルが「🎞」のとき

項目	設定	意味
⊡(測光モード)	スポット/中央重点/■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる(17ページ)。測光枠を設定する。
WB(ホワイトバランス)	SET/ / / / / /■オート	ホワイトバランスを設定する(32ページ)。
PFX(P.エフェクト)	モノトーン/セピア/■切	画像の特殊効果を設定する(38ページ)。

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
(フォルダ)	実行/キャンセル	再生したい画像の入っているフォルダを選ぶ(42ページ)。
(プロテクト)	—	画像に誤消去防止の指定/解除をする(47ページ)。
DPOF(DPOF)	—	プリント予約マークを付けたい/消したい静止画像を選ぶ(56ページ)。
(プリント)	—	PictBridge対応プリンターでプリントする(51ページ)。
(スライドショー)	間隔設定	– スライドショーの間隔を設定する(44ページ)。(シングル画面のときのみ) ■3秒/5秒/10秒/30秒/1分
	再生画像	– スライドショーを再生する範囲を設定する。 ■フォルダ内/全て
	繰り返し	– スライドショーを繰り返し再生する。 ■入/切
	スタート	– スライドショーを実行する。
	キャンセル	– スライドショーの設定および実行を中止する。
(リサイズ)	7M/5M/3M/1M/VGA/キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する(49ページ)。(シングル画面のときのみ)
(回転)	↶/↷/実行/キャンセル	静止画像を↶左回り、または↷右回りに回転する(45ページ)。(シングル画面のときのみ)
(分割)	実行/キャンセル	動画を分割する(61ページ)。(シングル画面のときのみ)

SET UP項目について

モードダイヤルを「SET UP」にすると、SET UP画面が表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

(カメラ1)

項目	設定	意味
AFモード	■シングル／モニタリング／コンティニュアス	ピント合わせの動作モードを設定する（26ページ）。
デジタルズーム	■スマート／プレシジョン／切	デジタルズームのモードを選ぶ（**別冊基本編** → 28ページ）。
日付/時刻	日時分／年月日／ ■切	画像に日付や時刻を挿入するかどうかを設定する（**別冊基本編** → 34ページ）。 動画／マルチ連写では、日付・時刻は挿入されない。また、撮影時は日付や時刻は表示されず、再生時に表示される。
赤目軽減	入／ ■切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する（29ページ）。
ホログラフィックAF	■オート／切	暗いところで撮影するとき、ホログラフィックAFを発光させるかどうかを選ぶ（**別冊基本編** → 32ページ）。フォーカスを合わせやすいようにするための機能です。
オートレビュー	■入／切	静止画撮影時、撮影直後に記録した画像を自動的に液晶画面に表示するかどうかを設定する。［入］に設定すると記録画像が約2秒間表示される。シャッターボタンを半押しすると記録画像の表示が消え、すぐに次の撮影ができます。

(カメラ2)

項目	設定	意味
アイコン拡大	■入／切	（フラッシュモード）／（セルフタイマー）／（マクロ）を押したとき、設定を一時的に拡大するかどうかを選ぶ。
フラッシュ	外部／ ■内蔵	市販の外部フラッシュを使うときに「外部」に設定する（30ページ）。

（メモリースティックツール）（/CFスイッチが「」のときのみ表示されます）

項目	設定	意味
フォーマット	実行／キャンセル	“メモリースティック”をフォーマット（初期化）する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、“メモリースティック”に記録されているすべてのデータが消去され、元に戻せないのでご注意ください（**別冊基本編** → 44ページ）。
記録フォルダ作成	実行／キャンセル	新しいフォルダを作成する（8ページ）。
記録フォルダ変更	実行／キャンセル	画像を記録するフォルダを変更する（8ページ）。

（CFカードツール）（/CFスイッチが「CF」のときのみ表示されます）

項目	設定	意味
フォーマット	実行／キャンセル	CFカードをフォーマット（初期化）する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、CFカードに記録されているすべてのデータが消去され、元に戻せないのでご注意ください（**別冊基本編** → 44ページ）。
記録フォルダ作成	実行／キャンセル	新しいフォルダを作成する（8ページ）。
記録フォルダ変更	実行／キャンセル	画像を記録するフォルダを変更する（8ページ）。

（設定1）

項目	設定	意味
LCDバックライト	明／■標準／暗	液晶バックライトの明るさを選ぶ。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。バッテリー使用時のみ表示される項目。
お知らせブザー	シャッター ■入 切	– シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 – コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 – 音は鳴らない。
言語	■日本語 English	– メニュー項目・警告表示などを日本語で表示する。 – メニュー項目・警告表示などを英語で表示する。

その他

（設定2）

項目	設定	意味
ファイルナンバー	■連番 リセット	– 記録フォルダを変更したり、記録メディアを取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。 – フォルダごとにファイル番号を0001から付ける。（記録フォルダ内にファイルがある場合は、既存最大番号＋1のファイル番号を付ける。）
USB接続	PictBridge PTP ■標準	－本機とPictBridge対応プリンターを接続する（51ページ）。 －PTP接続するとコピーウィザードが自動的に起動し、本機に設定されている記録フォルダ（**別冊基本編** → 60ページ）内の画像をパソコンへコピーします。（Windows XP、Mac OS Xに対応。） －本機とパソコンをUSB接続する（**別冊基本編** → 52ページ）。
ビデオ信号出力	■NTSC PAL	– ビデオ信号出力をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 – ビデオ信号出力をPALモードに設定する（欧州など）。
時計設定	実行／キャンセル	時計を合わせる（**別冊基本編** → 16ページ）。

使用上のご注意

置いてはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

レンズに指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

DCプラグをきれいにする

ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

– シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤のような化学薬品類
– 上記が手についたまま本機を扱うこと
– ゴムやビニール製品との長時間の接触

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0℃～ 40℃です。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。
充電式ボタンは、バッテリー挿入口内部に内蔵されています。絶対に取りはずさないでください。

充電方法

本機をACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切ったまま24時間以上放置する。

- 充電式ボタン電池は本機のバッテリー挿入口内部に内蔵されています。絶対に取りはずさないでください。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”は、小さくて軽いIC記録メディアです。
“メモリースティック”のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての“メモリースティック”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録・再生[4)]
メモリースティック	○
メモリースティック（マジックゲート／高速データ転送対応）	○[2) 3)]
メモリースティック　デュオ[1)]	○
メモリースティック　デュオ（マジックゲート／高速データ転送対応）[1)]	○[2) 3)]
マジックゲートメモリースティック	○[2)]
マジックゲートメモリースティック　デュオ[1)]	○[2)]
メモリースティック　PRO	○[2) 3)]
メモリースティック　PRO デュオ[1)]	○[2) 3)]

[1)] 本機でご使用の場合は、必ずメモリースティック　デュオ　アダプターに装着してからお使いください。

[2)] マジックゲート搭載の“メモリースティック”です。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本

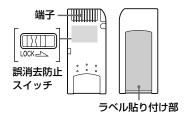
機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。

3) パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

4) 動画の[640(ファイン)]は“メモリースティック　PRO”または“メモリースティック　PRO　デュオ”でのみ記録／再生できます。

- パソコンでフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証しません。
- お使いの“メモリースティック”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み／書き込み速度が異なります。

“メモリースティック”使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。
  誤消去防止スイッチの有無や位置、形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には“メモリースティック”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  — 読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  — 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  — 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  — 直射日光のあたる場所
  — 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック　デュオ”使用上のご注意

- “メモリースティック　デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。アダプターに装着されていない状態で挿入されますと“メモリースティック　デュオ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認の上、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。
- “メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向を確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。

- メモリースティック　デュオ　アダプターに“メモリースティック　デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。
- “メモリースティック　デュオ”をフォーマットするときは、“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに装着してください。
- “メモリースティック　デュオ”に誤消去防止スイッチがついている場合、誤消去防止を解除してお使いください。

“メモリースティック　PRO”使用上のご注意

本機で動作確認されている“メモリースティック　PRO”は1GBまでです。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

InfoLITHIUM™ R TYPE

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは?

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー」再生（44ページ）にして、電源が切れるまでそのままにしてください。
- バッテリー端子の汚れやショート等を防止するため、携帯や保管には必ずバッテリーケースをお使いください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

主な仕様

■ 本体

［システム］

撮像素子 9.04 mm（1/1.8型）カラーCCD
原色フィルター

総画素数 約7 410 000画素

カメラ有効画素数
約7 201 000画素

レンズ カール ツァイス バリオ・ゾナー
4倍ズームレンズ
f=7 ～ 28 mm（35 mmカメラ換算では34 ～ 136 mm）、F2.8 ～ 4.0

露出制御 自動、シャッター優先、絞り優先、マニュアル露出、シーンセレクション（7モード）

ホワイトバランス
オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球、フラッシュ、ワンプッシュ

記録方式（DCF準拠）
静止画：Exif Ver. 2.2 JPEG準拠、RAW、TIFF、DPOF対応
動画：MPEG1準拠（モノラル）

記録メディア
“メモリースティック”
コンパクトフラッシュカード（Type I）

フラッシュ	推奨撮影距離(ISO感度がオートのとき) 0.4 ～ 3.0 m(W)／ 0.4 ～ 2.5 m(T)

[入出力端子]

A/V OUT(MONO)端子(モノラル)
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声：327 mV(47 kΩ負荷時)
出力インピーダンス
2.2 kΩ

ACC端子	ミニミニジャック(ø2.5 mm)
USB端子	mini-B
USB通信	Hi-Speed USB(USB2.0 準拠)

[液晶画面]

液晶パネル	6.2 cm(2.5型)TFT駆動
総ドット数	123 000ドット

[電源・その他]

使用バッテリー	NP-FR1
電源電圧バッテリー端子入力	3.6 V
消費電力(撮影時、液晶画面オン)	1.53 W
動作温度	0℃～ +40℃
保存温度	−20℃～ +60℃
外形寸法	119.8×72.0×63.0 mm (幅×高さ×奥行き、最大突起部を除く)
本体質量	約410 g(バッテリー NP-FR1、“メモリースティック”、ショルダーストラップなど含む)
マイクロホン	エレクトレットコンデンサマイクロホン
スピーカー	ダイナミックスピーカー
Exif Print	対応
PRINT Image Matching II	対応
Pict Bridge	対応

■ ACアダプター AC-LS5/LS5B

定格入力	AC 100 ～ 240 V、50/60Hz、11W
定格出力	4.2 V DC* * その他の仕様についてはACアダプターのラベルをご覧ください。
動作温度	0℃～ +40℃
保存温度	−20℃～ +60℃
外形寸法	48×29×81 mm (幅×高さ×奥行き、最大突起部を除く)
本体質量	約130 g(本体のみ)

■ バッテリー NP-FR1

使用電池	リチウムイオン蓄電池
最大電圧	DC 4.2 V
公称電圧	DC 3.6 V
容量	4.4 Wh(1220 mAh)

■ 付属品

- ACアダプター AC-LS5/LS5B(1)
- 電源コード(1)
- バッテリーパックNP-FR1(1)
- バッテリーケース(1)
- USBケーブル(1)
- A/Vケーブル(1)
- ショルダーストラップ(1)
- CD-ROM(USBドライバSPVD-012)(1)
- CD-ROM(Image Data Converter Ver.2.0)(1)
- サイバーショット基本編(1)
- サイバーショット応用編／困ったときは(1)
- 安全のために(1)
- 保証書(1)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや記録メディアなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

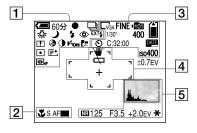
部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

画面上の表示

カッコ内の数字はページ数です。

静止画撮影時

1

表示	意味
60分	バッテリー残量 （別冊基本編 ➡ 12）
●	AE/AFロック （別冊基本編 ➡ 26）
RAW TIFF BRK	撮影モード（22、34、35、39、40）
WB	ホワイトバランス（32）

表示	意味
M A S P	モードダイヤル、シーンセレクション表示（別冊基本編 ➡ 10、35）
SL	フラッシュモード（28）
	赤目軽減（29）
W T ×1.3 S P	ズーム （別冊基本編 ➡ 28）
	シャープネス（96）
	彩度（96）
	コントラスト（96）
ON	ホログラフィックAF （98、別冊基本編 ➡ 32）
	コンバージョンレンズ（41）
	測光モード（17）
P	ピクチャーエフェクト（38）
NF	ナイトフレーミング／ナイトショット（36）
EXT	外部フラッシュ（30）

2

表示	意味
	マクロ （別冊基本編 ➡ 29）
S AF M AF C AF	AFモード（26）
	AF測距枠表示（24）
0.5m	フォーカスプリセット値（27）

3

表示	意味
7M 3:2 5M 3M 1M VGA	画像サイズ（別冊基本編 ➡ 22）
FINE STD	画質（7）
101	記録フォルダ（8）
	記録メディア残量
1/30"	マルチ連写インターバル（35）
400	撮影残枚数（別冊基本編 ➡ 24）
	セルフタイマー（別冊基本編 ➡ 31）
C:32:00	自己診断（91）
DATE	日付／時刻（別冊基本編 ➡ 34）
ISO400	ISO感度（23）
±0.7EV	ブラケット露出補正量（22）

4

表示	意味
	手ぶれ警告（89）
	バッテリープリエンド（89）
	AF測距枠（24）
＋	スポット測光照準（17）

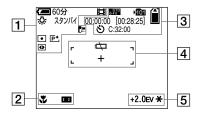
5

表示	意味
	ヒストグラム（19）
NR	NRスローシャッター（14）
125	シャッタースピード（13）
F3.5	絞り値（15）
+2.0EV	EV補正値（18）
	メニュー／ガイドメニュー（5）
✱	AE LOCK（21）

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ページ番号」のようにご案内しています。

動画撮影時

1

表示	意味
60分	バッテリー残量（**別冊基本編** ➡ 12）
	撮影モード（58）
	ホワイトバランス（32）
スタンバイ 録画	動画撮影（58）
×1.3	ズーム（**別冊基本編** ➡ 28）
	測光モード（17）
	コンバージョンレンズ（41）
	ピクチャーエフェクト（38）
	ナイトショット（37）

2

表示	意味
	マクロ（**別冊基本編** ➡ 29）
	AF測距枠表示（24）
0.5m	フォーカスプリセット値（27）

3

表示	意味
FINE 640 STD 640 160	画像サイズ（58）
101	記録フォルダ（8）
	記録メディア残量
00:00:00 [00:28:05]	記録時間［最大記録可能時間］（92）
	セルフタイマー（**別冊基本編** ➡ 31）
C:32:00	自己診断（91）

4

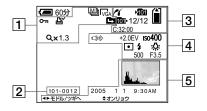
表示	意味
	バッテリープリエンド（89）
	AF測距枠（24）
＋	スポット測光照準（17）

5

表示	意味
+2.0EV	EV補正値（18）
	メニュー／ガイドメニュー（5）
✱	AE LOCK（21）

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ページ番号」のようにご案内しています。

静止画再生時

1

表示	意味
RAW TIFF	撮影モード(35、39、40)
7M 3:2 5M 3M 1M VGA	画像サイズ(**別冊基本編** ➡ 22)
	プロテクト(47)
	プリント予約マーク(56)
	フォルダ移動(42)
×1.3	再生ズーム(43)
コマ再生 12/16	コマ再生(46)

2

表示	意味
101-0012	フォルダ-ファイル番号(**別冊基本編** ➡ 60)

3

表示	意味
	PictBridge接続(52)
101	記録フォルダ(8)
	記録メディア残量
101	再生フォルダ(42)
12/12	画像番号/再生フォルダ内画像枚数
C:32:00	自己診断(91)

4

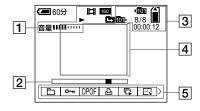
表示	意味
	USBケーブル抜き禁止(54、90)
+2.0EV	EV補正値(18)
ISO400	ISO感度(23)
	測光モード(17)
	フラッシュ
WB	ホワイトバランス(32)
500	シャッタースピード(13)
F3.5	絞り値(15)

5

表示	意味
	ヒストグラム(19)
	画像の記録日時(**別冊基本編** ➡ 34)
	メニュー/ガイドメニュー(5)

- メニュー/ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示/非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ページ番号」のようにご案内しています。

動画再生時

1

表示	意味
	撮影モード(59)
FINE 640 STD 640 160	画像サイズ(59)
► ■	再生／停止(59)
	フォルダ移動(42)
音量	音量(59)

2

表示	意味
	再生バー(59)

3

表示	意味
101	記録フォルダ(8)
	記録メディア残量
101	再生フォルダ(42)
8/8	画像番号／再生フォルダ内画像枚数
00:00:12	カウンター(59)

4

表示	意味
	再生画像(59)

5

表示	意味
	メニュー／ガイドメニュー(5)

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ページ番号」のようにご案内しています。

用語の解説

色温度(32ページ)
光の色を数値で表したもので、光源自体の温度ではなく、光の色を人間の目に見える感覚に置き換えて表した数値のことです。単位はK(ケルビン)が用いられます。色温度が低くなるほど赤みを、色温度が高くなるほど青みを帯びた光に感じます。

インストール(63、72、73、74、**別冊基本編** → 48ページ)
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込み、使用できる状態にします。

"インフォリチウム"バッテリー(104ページ)
"インフォリチウム"に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーのことです。

オートパワーオフ機能(**別冊基本編** → 15ページ)
電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源は自動的に切れます。

拡張子(**別冊基本編** → 62ページ)
ファイルの種類を表す3～4文字の英数字のことです。ファイル名の末尾にピリオドで区切られた一番右側の部分です。

画素(**別冊基本編** → 23ページ)
画像を構成する最小単位です。画素数が多いほど画像サイズが大きくなり、画像の解像度が高くなります。

画像サイズ(**別冊基本編** → 23ページ)
画素数を縦×横で表示したサイズです。画像サイズが大きいと、画素数が多くなり画像の解像度が高くなります。

光学ズーム(**別冊基本編** → 28ページ)
カメラのレンズ機能として拡大ズームを行うことをいいます。CCDとレンズの間の焦点距離を変化させることにより広角・望遠を切り換える方式で、画像の劣化がありません。

視差(パララックス)
ファインダーで見える範囲とレンズを通して液晶画面に写る範囲に差が生じることです。被写体との距離が近くなるほど視差が大きくなります。

シャッタースピード
撮影時にCCDに光を当てる時間のことです。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写ります。

スマートズーム(**別冊基本編** → 28ページ)
極めて画質劣化の少ない、画質を優先したデジタルズームです。光学ズームと同じような感覚で使うことが可能です。ただし、最大ズーム倍率は設定している画像サイズによって異なります。

ドライバ(**別冊基本編** → 48ページ)
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。

ノイズ(14ページ)
CCDが光を受け取り信号として出力するまでの過程で発生する画像のざらつきのことです。

半押し(**別冊基本編** → 26ページ)
シャッターボタンを押し込まず、半分押した状態にしておくことです。シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整します。

被写界深度（16ページ）
被写体にピントを合わせると、その被写体の前後の像にぼけを生じますが、実用上ピントが合っているとみなせる範囲のことを被写界深度といいます。
この範囲が広いときは「被写界深度が深い」、また範囲が狭いときには「被写界深度が浅い」といいます。

ピント（**別冊基本編** ➡ 27ページ）
被写体に対する焦点のことです。本機はピントを自動で調整しますが、撮影距離を設定することもできます。

フォーマット（**別冊基本編** ➡ 44ページ）
「初期化」とも言います。記録メディアにデータを書き込めるようにすることです。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消えます。

フォルダ（8、42ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所のことです。ファイルを分類するときに便利です。

プレシジョンデジタルズーム（**別冊基本編** ➡ 28ページ）
ズーム倍率を優先したデジタルズームです。画像をデジタル処理することにより、画像サイズの設定に関係なく常に最大で光学ズーム倍率の2倍のズームが可能になります。画像サイズ、ズームポジションによっては、スマートズームより画質が劣化することがありますが、一般的なデジタルズームに比べて劣化の少ない画質が得られます。

ホワイトバランス（32ページ）
光源に合わせて色を調整する機能のことです。被写体の見た目の色は光の状況に影響されます。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく写ります。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影することができます。

“メモリースティック”（102ページ）
小さくて軽く、フロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。

有効画素数（105ページ）
CCDが光から電気信号に変換できる画素数です。有効画素数から画像処理をしたものが記録画素数になります。

露出（16ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

AE（**別冊基本編** ➡ 26ページ）
「Auto Exposure」の略です。
被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能のことです。

AF（24、**別冊基本編** ➡ 26ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

CCD（105ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種です。

DCF（**別冊基本編** ➡ 4ページ）
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格です。

DPOF（56ページ）
「Digital Print Order Format」の略で、「ディーポフ」と読みます。プリント予約したい写真を記録メディア上に指定することができます。

EV（18ページ）
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位のことです。

Exif（105ページ）
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです。

ISO（23ページ）
「イソ」と読みます。カメラフィルムの光に対する感応度のことです。ISO単位で表します。数値が大きいほど高感度の撮影ができます。

JPEG（別冊基本編 ➡ 61ページ）
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式のことです。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

MPEG（別冊基本編 ➡ 61ページ）
「エムペグ」と読みます。カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮形式が得られます。本機では、動画撮影時、MPEG形式で画像を保存します。

OS（別冊基本編 ➡ 47ページ）
「Operating System」の略で、コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのことです。

PictBridge（51ページ）
「ピクトブリッジ」と読みます。
カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。PictBridge対応のプリンターと本機を接続して、画像ファイルをプリントすることができます。

PTP（100ページ、別冊基本編 ➡ 47ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略です。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法です。

RAWデータ（39ページ）
「ロー」と読みます。
CCDの生データをそのまま保存するため、圧縮、保存、解凍による画像劣化がないファイル形式です。専用ソフトウェアで画像処理を行い、「現像」します。画像補正機能を使用することによって、最適な画像を創ることができます。

TIFF（40ページ、別冊基本編 ➡ 61ページ）
「ティフ」と読みます。静止画の保存形式のひとつで、画像データを圧縮しないため、画像が劣化しません。本機では、TIFFモードでの撮影時にTIFF形式でJPEG方式画像を保存します。

USB（別冊基本編 ➡ 47ページ）
「Universal Serial Bus」の略です。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格です。

VGA（別冊基本編 ➡ 23ページ）
「Video Graphics Array」の略で、640×480の画像サイズのことです。

索引

数字の前に「基」がついているページは別冊基本編のページです。

R

S

T

U

V

W

製品についてのサポートのご案内

本機についてのサポート情報

http://www.sony.co.jp/support-di/

Picture Package/ImageMixer VCD2に関するお問い合わせ窓口

ピクセラユーザーサポートセンター

【電話番号】**06-6633-3900**　http://www.ppackage.com/

＜電話受付時間＞

月～日曜日　午前 9 時～午後 5 時（ただし、年末、年始、祝日を除く）

電話でのお問い合わせ

テクニカルインフォメーションセンター　【電話番号】**0564-62-4979**

＜電話受付時間＞

月～金曜日　午前 9 時～午後 5 時（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お電話の際は、本機をお手元にご用意ください。

修理のお申し込み

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。

テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEB サイトをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/di-repair/

カスタマー登録をしていただくと、修理の際の状況・日程を WEB 上でご確認できるなどのサポートを受けられます。

詳しくは同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録 WEB サイトをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/di-regi/

この説明書は 100% 古紙再生紙と VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャル WEB サイト

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/

サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。

撮影方法やアクセサリー情報、パソコン接続に関する情報を掲載しています。

英語の取扱説明書のダウンロードサービスも実施しています。

English manual download service is available.

Printed in Japan